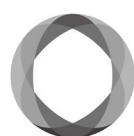


地域連携・防災研究センター年報

令和 7(2025)年度 第 18 号



やわらかな知性を身につける。

宮崎公立大学

MMU LIBERAL ARTS

目 次

地域連携・防災研究センター長あいさつ	1
--------------------	---

I 生涯教育事業

1. 定期公開講座	4
2. 自主講座	11
3. 語学講座	39
4. リカレント教育プログラム	47
5. 開放授業	54
6. 社会教育講座	57
7. その他講座・講演・講義	58

II 研究事業

1. 令和7(2025)年度 宮崎公立大学学術研究推進助成事業	62
---------------------------------	----

III 連携協力事業

1. 宮崎銀行・宮崎太陽銀行・宮崎商工会議所との連携協力	73
2. 宮崎日日新聞社との連携協力	74
3. 社会福祉法人宮崎県聴覚障害者協会との連携に関する協定	75

地域連携・防災研究センター長あいさつ



宮崎公立大学 地域連携・防災研究センター長
教授 川瀬 隆千

宮崎公立大学「地域連携・防災研究センター年報 第18号」の発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

令和7(2025)年4月に、地域研究センターを「地域連携・防災研究センター」と改称してから1年が経ちました。この1年、「地域連携・防災研究センター」は地域連携、防災研究・教育を一層充実させ、役割を果たしてまいりました。

2025年7月には、宮崎県聴覚障害者協会と連携協定を結びました。これは多様な人々が安心して学び、暮らせる共生社会を目指して、多様性を理解し、グローバル化する世界で活躍できる人材の育成を図ることを目的としたものです。8月と9月には新村特任准教授が宮崎県教育委員会の受託事業として聴覚障害者と市民・学生が交流できる「デフカフェ」を開催し、6月には四方教授が自主講座「手話をはじめてみよう」を開催するなど、聴覚障害者協会との連携協定を機に多文化共生社会の実現に向けた取り組みを進めています。

国際交流の機会も数多く創出してきました。原田特任准教授により、6月と11月に JLPT（日本語能力試験）対策講座、5月から7月に4回の国際交流ランチミーティングが行われました。また、地域との連携による多文化共生社会の実現に向けた取り組みとして、本学と宮崎市国際政策課・宮崎市国際交流協会の共同で本学の大学祭である凌雲祭においてブース出店「民族衣装体験」「世界の遊びと学び体験」を行いました。

一方、防災研究の成果を広く地域に還元し、地域の防災研究・教育の拠点としての機能を果たしてきました。8月には京都大学防災研究所との共催で本学をメイン会場に「京大ウィークス」が開催されました。山下准教授、新村特任准教授を中心にさまざまな企画が実施されました。中でも「防災大喜利」は参加した多くの市民も巻き込んで大いに盛り上がりしました。11月から12月にかけて、新村特任准教授の担当で、教育機関・地域と連携した防災教育「第15回ストリートウォッチング」が開催され、たくさんの小学生が参加してくれました。また、市民のみなさまも受講できる開放授業として「自然災害と防災・減災」（山下裕亮准教授・新村拓也特任准教授）を開講し、地域における防災士の養成にも貢献しています。防災研究の成果を広く地域に還元し、地域の防災研究・教育の拠点としての機能を果たしてきました。

もちろん、これまで同様に多様な学び直しの機会や学ぶ楽しさを実感できる機会の創出にも取り組んできました。

10月には恒例の定期公開講座を開催しました。国際政治経済専攻の教員を中心に「21世

紀の最初の四半世紀を振り返る」と言う統一テーマのもと、「改革・安定・模索―変動期の日本政治―」（下村准教授）、「『対テロ戦争』の25年―国際法への挑戦を振り返る―」（田村准教授）、「台湾企業の台頭：『ホンハイ・TSMCはどのような企業なのか？』」（稲田准教授）、「グローバル化と国際移民の半世紀／四半世紀」（倉准教授）の4つの講座が開催されました。延べ193人が参加され、熱い議論が交わされました。

リカレント教育プログラム「サービス業従事者のための接客韓国語講座」（申講師）、「サービス業従事者のための接客英語講座」（ニコル講師）では、それぞれ7名の受講者が最終試験に合格して、受講の認定証を交付されました。

語学に関する講座は「英語中級」「中国語初級」「韓国語初級」を前期と後期の2回、それぞれ10回ずつ開催しました。英語中級はビンガム教授の担当で、「中国語初級」と「韓国語初級」は日中文化交流促進部の学生、韓国文化研究部の学生の担当で実施しています。参加者の評判も良く、学生の勉強にもなる本学の特徴的な語学講座です。

本学の講座の大きな特徴は教員が主体的にテーマを設定する自主講座が充実していることです。2025年度には12人の教員が14件の自主講座を開講しました。実施の早い順に、タイトルと担当者を示します。「大人のための社会心理学ゼミ」（川瀬）、「私の中に社会が見える―高校生のための社会心理学入門」（川瀬）、「アニメーションのもつチカラ」（森津教授）、「高校生の為のデータ解析講座」（西村特任教授）、「岐路に立つドイツ政治」（下村准教授）、「物語から読む地震―『すずめの戸締まり』『わかば』を例に―」（楠田准教授）、「アイリッシュ・ハープの世界」（村上准教授）、「中高生と大人のための「使える英語」講座 Vol.4」（松本教授）、「ステレオタイプ化の何が悪いのか」（八重樫准教授）、「宮崎発！海外進出のための貿易&ブランディング基礎講座」（新村特任准教授）、「敗戦80年、海を渡った人たちの軌跡」（金子講師）。これらに加えて、前述の「JLPT（日本語能力試験）直前対策講座」（原田特任准教授）、「手話をはじめてみよう」（四方教授）、「教育機関・地域と連携した防災教育（第15回ストリートウォッチング）」（新村特任准教授）というバラエティに富んだ講座を実施し、市民の皆さんの知的好奇心に答えています。

宮崎市の公民館との共同で社会教育講座も行われています。「英語を親子で楽しもう（英語教育）」（松本教授）は7月に2回、「よみがえる江戸時代の宮崎」（大賀教授）は9月・10月に3回、「宮崎と現代文学」（楠田准教授）は10月に2回行われ、市民の皆さんに大変好評でした。

2月には2025年度で退職する福田稔教授の最終講義が行われました。福田先生が行き詰まりをチャンスに変えながら、英文法の研究に取り組んで来られた教員生活を振り返り、お話されました。本学教職員はもちろん、本学卒業生や市民の方もたくさん参加され、華やかな最終講義となりました。

ご紹介したように、令和7（2025）年度も地域と連携しながらさまざまな活動を展開してきました。

宮崎公立大学地域連携・防災研究センターはこれからも地域貢献研究および活動の拠点として、地域の多様な学習ニーズに応えながら、地域の問題解決に向けた教育・研究活動を展開し、その成果を地域社会に還元していきます。地域連携・防災研究センターの活動への一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

I 生涯教育事業

1. 定期公開講座
2. 自主講座
3. 語学講座
4. リカレント教育プログラム
5. 開放授業
6. 公民館講座
7. その他講座・講演・講義

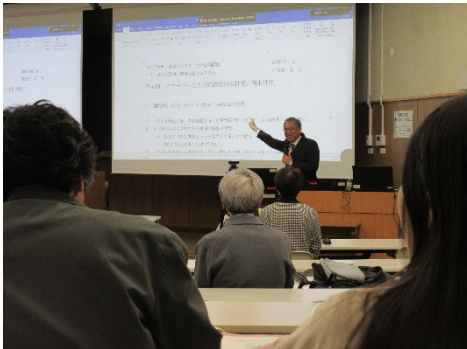
1. 令和7(2025)年度 定期公開講座

令和7年度 定期公開講座 *全体テーマ 「21世紀の最初の四半世紀を振り返る」			
講義	日 時	講 座 演 題	講 師
第1回	10月 3日 (金) 18:30 ～ 20:00	開講あいさつ	川瀬地域連携・防災研究 センター長
		「改革・安定・模索―変動期の日本政治―」	宮崎公立大学 准教授 下村 太一
第2回	10月10日 (金) 18:30 ～ 20:00	「対テロ戦争」の25年 ―国際法への挑戦を振り返る―	宮崎公立大学 准教授 田村 恵理子
第3回	10月17日 (金) 18:30 ～ 20:00	「台湾企業の台頭：ホンハイ・TSMCはどのような企業なのか？」	宮崎公立大学 准教授 稲田 光朗
第4回	11月14日 (金) 18:30 ～ 20:00	「グローバル化と国際移民の半世紀/四半世紀」	宮崎公立大学 准教授 倉 真一
		閉講あいさつ	川瀬地域連携・防災研究 センター長

定期公開講座 （第1回講座 / 全4回）	
実施日時	令和7年10月3日（金） 18時30分～20時00分
会場	宮崎公立大学 103大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	なし
受講者	対面：33名 オンライン：21名
配付資料等	各講座資料等
担当講師	演 題
宮崎公立大学 准教授 下村 太一	「改革・安定・模索 ―変動期の日本政治―」
【講座内容】 今、日本の政治は大きな岐路に立っています。昨年の衆議院選挙に続き、今年7月の参議院選挙でも与党は大敗し、衆参両院で過半数の議席を失いました。異例の少数与党政権のもと、これから日本の政治はどこへ向かうのでしょうか。 1990年代には、衆議院の選挙制度改革や中央省庁の再編など、大規模な政治改革が行われました。そこで目指されたのは、政権交代可能な政治の実現と首相のリーダーシップの強化でした。しかし、今年の参院選では新興政党が躍進する一方、与党と野党第一党がともに振るわず、多党化が進行しました。野党連携も進まず、政権交代の可能性は見通せない状況にあります。また、物価高をはじめとする私たちの生活に関わる課題が山積し、アメリカのトランプ政権による対日圧力も強まるなど、首相の指導力が問われる局面が続いています。 本講座では、平成期に行われた政治改革の成果と課題を振り返りながら、現在の政治状況を読み解き、今後の日本政治のあり方について皆さんとともに考えます。	
【受講者感想 ※アンケートから抜粋】 ・高校で習う政治・経済より深く日本の政治史について学ぶことが出来ました。二大政党制などについて学ぶ良い機会となりました。 ・日本のこれまでの政治について学ぶことが出来ました。政治について深く考えたことがなかったのですが、今回の講座を受けて興味が湧きました。	
 	

定期公開講座 （第2回講座 / 全4回）	
実施日時	令和7年10月10日（金） 18時30分～20時00分
会場	宮崎公立大学 103大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	なし
受講者	対面：27名 オンライン：19名
配付資料等	各講座資料等
担当講師	演 題
宮崎公立大学 准教授 田村 恵理子	「対テロ戦争」の25年 —国際法への挑戦を振り返る—
【講座内容】 2001年9月11日に米国で同時多発テロ事件が生じて以来、テロ集団と米国等の国家との間で戦争が生じていると言われる。しかし、この「対テロ戦争」は従来の国際法の枠組に上手く当てはまらない。「戦争」は国家同士の武力行使を指すが、テロ集団は国家ではない。国家は非国家アクターに対して「武力＝軍事力」を行使するのではなく、秩序維持のための「警察・法執行力」を用いる。国境を超える重大な犯罪（例：ハイジャック、国家代表への暴力、人質行為）には、関係国が処罰のため協力する条約がいくつも用意されている。「テロ（リズム）」は犯罪の一種であるが、包括的な定義は国際社会で合意がなく、自分の敵対勢力を非難するため「テロ」とレッテル貼することは法的な問題を生じさせる。対テロ戦争は、こうした従来の認識と対応を逸脱する国家の様々な暴力や権力の行使に道を開いた。過去25年に渡って国際法は、対テロ戦争下の国家実行からどのような挑戦を受け、どのように応答してきたのか。挑戦を跳ね返したのか、屈したのか。日本の私たちへの影響も合わせて考えます。	
【受講者感想 ※アンケートから抜粋】 ・武力行使について、多方面から見る必要性について、考えさせられた。正義とは何か。平和とは何かを問い続けていく必要があると感じた。 ・皆さんの質問がとても面白くて勉強になった。特に国際法・安全保障理事会の存在意義についての講義はとても興味深かった。	
 	

定期公開講座 （第3回講座 / 全4回）	
実施日時	令和7年10月17日（金） 18時30分～20時00分
会場	宮崎公立大学 103大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	なし
受講者	対面：34名 オンライン：23名
配付資料等	各講座資料等
担当講師	演 題
宮崎公立大学 准教授 稲田 光朗	「台湾企業の台頭：ホンハイ・TSMC はどのような企業なのか？」
【講座内容】 熊本に進出した TSMC やシャープを買収したホンハイなど台湾企業の日本のみならずグローバルな存在感が高まっています。しかし、日本一般社会においてこうした台湾企業がどのように発展してきたのか、グローバル経済においてどのような役割を果たしているのか十分に知られていません。 そこで、本講座においてはオフショア・アウトソーシングの観点から台湾企業の発展を紐解いていきます。特に TSMC やホンハイがどのような存在なのか、中国経済とのかかわりはどのようなであったのか、そして、現在の東アジア情勢において台湾企業の存在が与える影響などを議論したいと思います。	
【受講者感想 ※アンケートから抜粋】 ・台湾が半導体で世界的に台頭したという事を初めて知りました。「シリコンシードル」という言葉も初めて聞きましたが、大変興味深い内容でした。日本も国際社会にとって欠かせない技術や産業を拡大し、経済活動による平和維持が必要だと感じました。 ・台湾の企業が世界を動かしていることがわかった。熊本（菊陽町）は活気があるので、ぜひ宮崎にも工場ができるといいなと思う。	
頭したのか背 IMS企業が台頭 勢に与える影響 電路製造)な 景を理解す •どのように してきたの •台湾企業の について検 	

定期公開講座 （第4回講座 / 全4回）	
実施日時	令和7年11月14日（金） 18時30分～20時00分
会場	宮崎公立大学 103 大講義室
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	なし
受講者	対面：16名 オンライン：20名
配付資料等	各講座資料等
担当講師	演 題
宮崎公立大学 准教授 倉 真一	「グローバル化と国際移民の半世紀/四半世紀」
【講座内容】 20 世紀最後の四半世紀から現在までの半世紀を、移民の観点から振り返れば、それは「移民のグローバル化」と称すべき時代となるだろう。それは単に国境を越える移民の数が急増したとか、移民（の送出／受入）と無縁な国や地域が地球上からほぼ消滅したこと意味するだけではない。それはむしろ一見すると対立し相矛盾するようにみえる 2 つの潮流の絡み合いのなかで生じている変動です。 1 つは市場原理主義的なグローバル化による越境的な流れの拡大と加速化、もう 1 つはそれに対抗して境界を強化して障壁を再構築しようとする排外主義的な潮流の持続である。これらは現在も続いているが、さらに 21 世紀に入って世界的に「選別的」な移民政策への転換が進んでいる。ここでは選別と通じた移民の「包摂」と「排除」の二極分化がみられる。こうした国際移民の半世紀／四半世紀について、一見すると対立し相矛盾する潮流や変動の絡み合いを、日本も含めたグローバルな視点から紐解き考えます。	
【受講者感想 ※アンケートから抜粋】 ・自分が将来移民となる可能性を考え、日本を含む国家が移民に対してどのように考えているのか歴史を知ることができてよかったです。人口減少に伴い移民を受け入れる必要がある中、移民を国民と平等にポジティブな態度で受け入れるようになってほしいです。 ・わかりにくい入りかと思っていましたが、段々おもしろくなっていきました。もう少し詳しくお話を伺いたいなという気になりました。	
 	



宮崎公立大学 令和7年度 定期公開講座のご案内(無料)

広く地域に開かれた大学として、生涯学習の振興及び文化の向上に貢献することを目的に、公開講座を開講します。

今年度は国際政治経済専攻所属の教員が講師となり全4回の講座を実施します。(zoomライブ配信あり)
この機会に本学の講座を体験してみませんか?
1講座だけの受講も可能です。



統一テーマ

「21世紀の最初の四半世紀を振り返る」

【日程】

令和7年10月3日～10月24日
全4回・毎週金曜日

【時間】

18時30分～20時

【会場】

宮崎公立大学 研究講義棟1階103大講義室
及びオンライン(zoomによるライブ配信)

※オンラインの方は前日までにお申込みください。
※zoomのURL及びパスワードは前日までにメールにてお知らせします。

【定員】

200名(事前予約制)
※当日参加も可能ですが、お申込が必要です。

【担当講師】

- ・第1回 下村 太一
宮崎公立大学 准教授
- ・第2回 田村 恵理子
宮崎公立大学 准教授
- ・第3回 稲田 光朗
宮崎公立大学 准教授
- ・第4回 倉 真一
宮崎公立大学 准教授



詳しくは本学ホームページをご確認ください

注 意 事 項

- ※zoomの方は事前予約(前日まで)といたします。
- ※お申込み受付後、特にご連絡は致しませんので、当日会場にお越しください。
- ※台風・災害等で講座を中止する場合は、本学ホームページで案内します。
- ※zoomの利用方法等について、本学による説明や技術的なサポートは致しかねます。



宮崎公立大学 地域連携・防災研究センター

定期公開講座フライヤー

令和7年度 宮崎公立大学 定期公開講座

統一テーマ

「21世紀の最初の四半世紀を振り返る」



各日程のテーマ・講師

第1回
10/3 (金)

改革・安定・模索 ―変動期の日本政治―
下村 太一（宮崎公立大学 准教授）

第2回
10/10 (金)

「対テロ戦争」の25年―国際法への挑戦を振り返る―
田村 恵理子（宮崎公立大学 准教授）

第3回
10/17 (金)

台湾企業の台頭：ホンハイ・TSMCはどのような企業なのか？
稲田 光朗（宮崎公立大学 准教授）

第4回
10/24 (金)

「グローバル化と国際移民の半世紀／四半世紀」
倉 真一（宮崎公立大学 准教授）



申込方法

講座期間中も受付いたします。1講座だけの受講も可能です。

郵便・FAX・右記Googleフォームのいずれかの方法で、
以下の事項を宮崎公立大学 地域連携推進係宛、お申込みください。

- ①受講希望日 ②対面希望・オンライン希望 ③氏名(ふりがな)
- ④連絡が取れる電話番号 ⑤メールアドレス

お申込みはこちらの
QRコードから



※zoomのURL及びパスワードは前日までにメールにてお知らせします。

お問合せ先

宮崎公立大学 地域連携推進係
(地域連携・防災研究センター)

〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58 凌雲会館2階
TEL:0985-20-4772 FAX:0985-20-4773
メール:mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp
受付時間:平日9:00~17:00(土・日、祝日を除く)



2. 令和 7（2025）年度 自主講座一覧

	開催日時	開催者名	講座名
1	6 月 11 日～ 全 7 回	教授 川瀬 隆千	大人のための社会心理学ゼミ
2	6 月 19 日	教授 四方 由美	手話をはじめてみよう
3	6 月 21 日～ 全 6 回	特任准教授 原田 真理	JLPT（日本語能力試験）直前対策講座
4	9 月 6 日	教授 川瀬 隆千	「私」の中に社会が見える —高校生のための社会心理学入門—
5	10 月 13 日	教授 森津 千尋	アニメーションのもつチカラ
6	10 月 24 日 全 9 回	特任教授 西村 勇	高校生の為のデータ解析講座
7	11 月 7 日～ 全 4 回	特任准教授 新村 拓也	教育機関・地域と連携した防災教育 （第 15 回ストリートウオッチング）
8	11 月 29 日	准教授 下村 太一	岐路に立つドイツ政治
9	2 月 7 日	准教授 楠田 剛士	物語から読む地震 —『すずめの戸締まり』『わかば』を例に—
10	2 月 20 日	准教授 村上 幸大郎	アイリッシュ・ハーブの世界
11	3 月 7 日	教授 松本 祐子	中高生と大人のための「使える英語」講座 Vol. 4
12	3 月 7 日	准教授 八重樫 徹	ステレオタイプ化の何が悪いのか
13	3 月 11 日～ 全 3 回	特任准教授 新村 拓也	宮崎発！ 海外進出のための貿易&ブランディング基礎講座
14	3 月 21 日	講師 金子 龍司	敗戦 80 年、海を渡った人たちの軌跡

講 座 名		大人のための社会心理学ゼミ	
実 施 期 間	令和7年 6月11日（水）～令和7年12月10日（水）	全 7 回	
回 数	18時30分～20時00分		
会 場	宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室		
講 師	宮崎公立大学 教授 川瀬 隆千		
共 催 者	なし		
後 援	なし		
その他スタッフ	なし		
受 講 料	無料		
配付資料等	講座資料		
募 集 定 員	17 名		
対 象	一般市民		
受 講 者 数	17 名（のべ受講者 85 名）		
【講座の内容】		【講座風景写真】	
講座は、講師による一方的な講義ではなく、講師と参加者とのコミュニケーション、参加者同士のコミュニケーションを深められるように、定員 15 名（実際の人数は 17 名）の少人数ゼミ形式で、6 月から 12 月まで毎月 1 回のペースで行った。1 回の講座時間は 90 分であった。 毎回の講座では、宮崎公立大学における「社会心理学」の講義内容をベースに、社会人の興味関心に合わせた内容とした。講座では、講師から心理学や社会心理学に関するトピックを提示した後、参加者からの疑問、質問に答えたり、参加者同士で日頃感じていることについて意見交換したりした。このようにして、社会心理学に関する理解を深めるとともに、日常的な疑問や課題を学問的な視点から考え直す機会を提供した。 少人数ゼミ形式で 7 回の連続講座のお陰で、参加者は徐々に打ち解け、活発な議論ができた。時には思わぬ方向に議論が進むこともあったが、少人数ゼミ形式の講座の醍醐味といえる。			
【講師コメント】			
昨年に続き、今年も「大人のための社会心理学ゼミ」を行った。全 7 回を通して、賑やか中にも充実した時間を過ごすことができたと思う。 参加者の感想からも毎回楽しく学ぶことができたことがうかがえる。同じメンバーで月に 1 回顔を合わせることになるので、コミュニケーションがしやすかったし、毎月、いろいろなテーマについて考えるので、徐々に考え方や物の見方が変化したと感想を述べる参加者もいた。参加者の多くが、講座の内容を自分自身の生活や仕事に引き付けて考え、日常の視点から疑問や質問をされ、活発に意見交換されていた。 担当講師としても日頃接している学生とは違う社会人の視点からの質問に考えさせられることが多かった。緊張感を持って楽しく講座を行うことができたと思う。 参加者同士の新しい出会いの機会にもなったようである。講座後には懇親の場を設けることもでき、参加者同士がより親密になれたようである。 大人数の講座と一味違う、市民講座や学び直しの新しい形を示すことができたと思う。今後はこの少人数ゼミ形式の講座をより充実させていきたいと思う。			

宮崎公立大学自主講座

大人のための 社会心理学ゼミ

社会人を対象とした少人数ゼミ形式の講座です。社会心理学の観点から日常生活の疑問に答えます。社会心理学の学びとコミュニケーションを通して、多くの気づきが得られるのではないかと思います。

講師

川瀬 隆千
(宮崎公立大学 教授)

日時

全7回 18:30~20:00 (水)

第1回	6/11	第2回	7/9
第3回	8/6	第4回	9/10
第5回	10/8	第6回	11/5
第7回	12/10		

会場

宮崎公立大学
凌雲会館 共同研究室等

対象者

一般市民(全7回をおおむね受講できる方)

定員

15名程度(応募多数の場合抽選)

受講料

無料



申込方法

申込QRコードよりお申込みください。

URL: <https://forms.gle/KPFuJ3XKtuZZHZFe6>

(ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。)

申込締切 5月25日(日)



申込QRコード



お問い合わせ先 宮崎公立大学 地域連携推進係(凌雲会館2階) TEL: 0985-20-4772 (土・日、祝日を除く9:00~17:00)
E-mail muirrc@niyazaki-u.ac.jp

講座名		手話をはじめてみよう	
実施期間 回数	令和7年6月19日（木）18時30分～20時00分	全 1 回	
会場	宮崎公立大学 附属図書館 クロスラウンジ		
講師	宮崎県聴覚障害者協会 黒木 千菜、溝ノ口 光輝、堀田 亨志、 田中 博之 講座企画・司会 宮崎公立大学 教授 四方 由美		
共催者	協力：宮崎県聴覚障害者協会		
後援	なし		
その他スタッフ	宮崎公立大学 特任准教授 新村 拓也		
受講料	無料		
配付資料等	講座資料		
募集定員	50名		
対象	市民、学生		
受講者数	50名		
【講座の内容】		【講座風景写真】	
開会のことば 講師紹介 グループ編成 手話講座 1, 指文字 2, あいさつ 3, ジェスチャーゲーム 聴覚障害者協会の取り組み紹介 「国スポ、障スポに向けて」 閉会のことば		 	
【講師コメント】			
本講座は、宮崎県聴覚障害者協会の協力を得て、聾の方を講師とした手話講座として開催した。指文字、あいさつ、ジェスチャーゲームなど、初めて学ぶ人にも親しみやすい内容で構成したことにより、受講生には身構えることなく学んでもらえたと考えている。事後アンケートには「楽しかった」「また参加したい」「もっと学びたい」という次の学びにつながる声が多く見られた。 受講者の内訳は市民の方と学生が半数ずつという大学で開催する講座としてバランスの良いものになった。定員の50名を超える申し込みがあり、手話への関心の高さがうかがえた。これからも手話をはじめとした聴覚障害への理解を深める取り組みを実施していきたい。			



参加無料



第1回
(全3回講座)

手話をはじめてみよう

ゼロから学べる



言語を覚えると話せる人が増える。
外国語を学ぶのも、とっても良いけど、
手話を始めてみるのも、どうでしょう？
まずは一度、体験してみませんか？



6.19^{Thu}

18:30~20:00

会場

宮崎公立大学 附属図書館
クロスラウンジ

- ・指文字、あいさつ、自己紹介
- ・聞こえない人と交流してみよう
- ・ジェスチャーゲームなどなど

お申込はこちらより！

定員：50名

お申込みはお早めに！



問い合わせ：宮崎公立大学 地域連携・防災研究センター

TEL：0985-20-4772 Email：mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講 座 名		JLPT 直前対策講座	
実 施 期 間 回 数		令和 7 年 6 月 21 日、28 日、7 月 5 日（土） 令和 7 年 11 月 22 日、29 日（土）、12 月 6 日（土） 9 時 00 分～15 時 00 分	全 6 回
会 場		宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室・IT 教育支援室	
講 師		日本語教師 荒井 圭美 宮崎公立大学 特任准教授 原田 真理	
共 催 者		なし	
後 援		なし	
その他スタッフ		学生アルバイト 11 名	
受 講 料		無料	
配付資料等		なし	
募 集 定 員		10 名	
対 象		宮崎市在住外国人（高校生以上）	
受 講 者 数		25 名（のべ受講者：51 名）	
【講座の内容】		【講座風景写真】	
在住外国人を対象として、日本語能力試験（JLPT）直前対策講座を実施した。講座では『はじめての日本語能力試験 合格模試 3 回分』を使用し、試験概要および解答のポイントについて説明した。その後、語彙・文法・読解問題を実際に解き、解説を行った。あわせて、問題に登場した表現やフレーズを基に会話練習も実施した。 また、事前に問題を受講者へ送付し、特に誤答が多かった問題を中心に提起して解説する回も設けた。解答時間については、本番試験と同様の制限時間を設定し、実際の試験環境に近い形で演習を行った。 さらに、講座の合間には本学学生が参加し、受講者との交流を通じて実践的な会話練習の機会を提供した。受講者は、学生の意見や質問に応じながら会話を展開する体験を通して、実践的な運用能力の向上を図ることができた。			
【講師コメント】			
本講座には、他大学の学生、社会人、家族帯同者など、多様な背景を持つ受講者が参加し、幅広い交流の場となった。一方で、地震に関する噂の影響もあったのか、7 月 5 日は参加者が大きく減少した。また、後半の回では別イベントとの日程重複により、参加者が少ない回も見られた。受講者は当初緊張した様子が見られたものの、回を重ねるごとに雰囲気が和らぎ、最終回には「このような講座が毎週あると良い」という声が聞かれるなど、高い満足度がうかがえた。特に、本学学生との交流を新鮮に感じ、遠方から参加した受講者も積極的に会話を楽しむ姿が印象的であった。本講座は、受講者にとって日本語で話す実践の機会となり、また本学学生にとっても異文化交流を体験できる貴重な学びの場となったと考える。			

Miyazaki Municipal University

JLPT

(Japanese Language
Proficiency Test)

3SESSIONS

FREE

LAST MINUTE COURSES

TARGET: Foreign residents in city
UP TO 10 participants.

CLASS 【N1】 9:00-10:30
【N2】 10:30-12:00
【N3】 13:30-15:00
【N4】 15:00-16:30

June 21(Sat)
June 28(Sat)
July 5(Sat)

PLACE Miyazaki Municipal University
Ryoun Kaikan 2F

HOW TO APPLY Please apply using
the QR code or the
following URL
Deadline : May 30



<https://forms.gle/1sL4ouk5mnFVzG1K8>

INQUIRY

Miyazaki Municipal University Regional Section(Ryoun Kaikan 2F)
TEL : 0985-20-4772 (Excluding Saturdays, Sundays and
holidays 9:00~17:00)
E-mail mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

LECTURERS Miyazaki Municipal
University Lecturers
Mari Harada and Others



Miyazaki Municipal University

FREE

JLPT LAST MINUTE COURSE



[N1] 9:00-10:30
[N2] 10:30-12:00
[N3] 13:30-15:00
[N4] 15:00-16:30

The third session (Dec 6) will be held in the morning only. Details will be announced at the second session.

Nov 22 (Sat)
Nov 29 (Sat)
Dec 6 (Sat)

HOW TO APPLY:
Please apply using the QR code or the following URL



Deadline 11/19

<https://forms.gle/KcNYWajW6BBAQXA29>

APPLICATION & INQUIRY
Miyazaki Municipal University Area Study Center
TEL : 0985-20-4772 (Mon-Fri 9:00-17:00)
E-mail : mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

TARGET: Japanese learners in city
UP TO 10 participants
PLACE: Miyazaki Municipal University
Ryoun Kaikan 2F



LECTURERS: Miyazaki Municipal University lecturer
Mari Harada and Others

講座名		「私」の中に社会が見える ―高校生のための社会心理学入門―	
実施期間 回数	令和7年9月6日(土)9時30分～12時00分	全1回	
会場	宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室		
講師	宮崎公立大学 教授 川瀬 隆千		
共催者	なし		
後援	なし		
その他スタッフ	学生アルバイト3名		
受講料	無料		
配付資料等	講座資料		
募集定員	なし		
対象	高校生・一般		
受講者数	44名 (対面：26名 オンライン：18名)		
【講座の内容】		【講座風景写真】	
本講座は高校生を対象に、個人と社会の関係について解説したものである。「私」は社会の産物である。「私」は周りの人々や文化の影響を受けて作られる。そして、そのようにして作られた「私」が、今度は周りの人々や社会に影響を及ぼす。 このように、「私」と「社会」は密接につながっている。本講座では、社会心理学の考え方や研究方法の解説も交えながら、「私」と「社会」の関係について、特に、同調、自己呈示、文化的自己観、少数派影響の4つの観点から検討した。 進路情報なども提供しながら、社会の一員として責任を果たしながら、社会をより良い方向に変えていくことについて考えを深めた。			
【講師コメント】			
高校生向けの講座であったが、保護者など一般の方も受講された(9名)。心理学に興味を持っている生徒も多く、参加者はたいへん熱心に講義を聞いてくれた。講義のレベル、進め方、講義時間などは、ちょうど良いと評価されたが、もっとレベルを上げて良いという意見もあった。講義の全体的な満足度は「大変満足」「満足」が80%以上であった。 「心理学に興味を持ちました」「普段の学校生活によくある状況が多かったため、共感しながら聞くことができました」「社会心理学を深く学んでみたいと思った」「実際の大学の講義のイメージを掴めた気がする」「話のスピードもちょうど良く聞き取りやすかったです」などの感想が寄せられた。講義内容は良く理解されたようである。 また、講座後に現役学生と語る時間を設けたが、「講座後の学生との相談会があったので色々な事が聞けて参考になりました。わかりやすく丁寧に説明や経験談を話していただき大変お世話になりました。学生の方との交流は参加者にとっては、とても良い機会だと思いました」という感想があった。			

「私」 の中に 社会が見える

宮崎公立大学自主講座

「私」は社会の産物です。「私」は周りの人々や文化の影響を受けて作られるのです。そして、そのようにして作られた「私」が、今度は周りの人々や社会に影響を及ぼします。社会心理学の考え方や研究方法の解説も交えながら、私と社会の関係を探り、「私とは何か？」を考えます。

主に高校生向けの体験授業的な講座ですが、どなたでもお申込みいただけます。

2025年

9月6日 土 ▶ 9:30～12:00

受講方法

対面

(宮崎公立大学での受講)

または

オンライン

(Zoom利用による受講)

定員

対面のみ先着100名

※オンライン受講には定員を設けません

申込方法

受付期間中にGoogleフォームよりお申込みください。

申込締切

8月31日 日

※対面のみ定員の100名に達した時点で申込を締め切ります。

9/2までに、対面受講を申し込まれた方には講座会場等の案内を、オンライン受講を申し込まれた方にはZoomのID・パスワード等をメールにてお送りします。

講座終了後、学生スタッフによる大学生生活の紹介と質問応答の時間を設けます。宮崎公立大学について興味がある方は是非お申込みください！

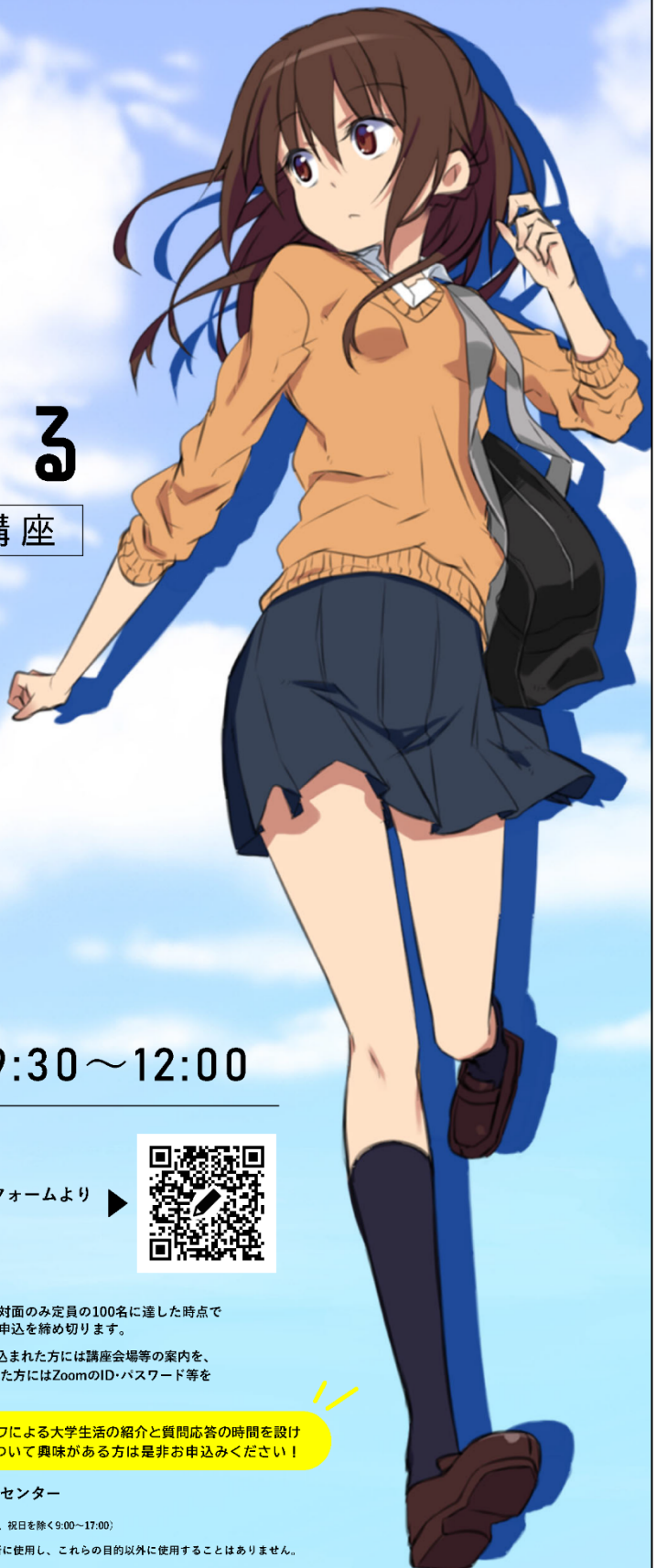


お問合わせ

宮崎公立大学地域連携・防災研究センター

TEL 0985-20-4772 (土・日、祝日を除く9:00～17:00)

● ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。



講座名		アニメーションのもつチカラ	
実施期間 回数	令和7年10月13日（月）14時00分～16時00分	全 1 回	
会場	宮崎公立大学 103 大講義室		
講師	株式会社 RICEFIELD 代表取締役社長 田原 麻美 株式会社 RICEFIELD 所属アニメーター 小谷 貴子 講座企画・司会 宮崎公立大学 教授 森津 千尋		
共催者	なし		
後援	なし		
その他スタッフ	学生アルバイト 11 名		
受講料	無料		
配付資料等	なし		
募集定員	100 名		
対象	一般市民		
受講者数	50 名		
【講座の内容】 前半は、アニメ業界の現状を概説した上で問題や課題点などを指摘し、今後の動向について説明した。また地方におけるアニメーション人材育成についても、具体例をあげながら説明した。 後半は、アニメーションの制作過程について解説し、実際にソフトを使いながら作画のポイントなどを説明した後、質疑応答となった。		【講座風景写真】 	
【講師コメント】 受講生には若い方が多く、宮崎でもアニメ業界に関心のある人が多いと感じた。アニメや絵を描くことが好きでも、どのようにこの業界に入ればよいのかわからないという人は多く、特に地方だと身近にもそのような業種に携わっている人も少ないので、これからも出身地の宮崎において、このような活動を続けていきたい。			

宮崎公立大学自主講座 アニメーションのもつちカラ

アニメ業界の動向や具体的な制作過程について紹介し、
田原氏がコロナ禍に立ち上げた「アニメ塾」を事例に、
オンラインでのアニメ人材の育成について考えます。

講師

田原 麻美

(株式会社RICE FIELD代表取締役社長
アニメーションプロデューサー)

小谷 貴子

(株式会社RICE FIELD所属アニメーター)

司会

森津 千尋

(宮崎公立大学教授)

日時

10月13日(月)
14:00～16:00 (開場13:30)

会場

宮崎公立大学103大講義室

対象者

どなたでもお気軽にご参加ください



託児希望の方はQRコードより
お申込みください
託児申込締切：10月2日(木)



【お問合せ先】 宮崎公立大学 地域連携推進係(凌雲会館2階)
TEL: 0985-20-4772(土・日、祝日を除く9:00～17:00)
E-mail mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講 座 名		高校生の為のデータ解析講座	
実 施 期 間 回 数		令和7年10月24日（金）～令和7年11月28日（金） 9時50分～10時40分	全 9 回
会 場		宮崎県立宮崎商業高等学校	
講 師		株式会社 LIXIL データサイエンス室長 片所 剛 宮崎市 観光戦略課 主任主事 郡元 啓二 宮崎商業高等学校 教諭 中島 宏、生駒 哲明 宮崎公立大学 特任教授 西村 勇	
共 催 者		宮崎県立宮崎商業高等学校	
後 援		なし	
その他スタッフ		なし	
受 講 料		無料	
配付資料等		講座資料	
募 集 定 員		なし	
対 象		宮崎県立商業高等学校 情報ソリューション科 3年生	
受 講 者 数		22 名（のべ受講者 198 名）	
【講座の内容】 高校や大学等の教育で実社会の生のデータを使用したデータ解析は、データ取得が大変困難であり、またビジネスの状況についての担当者へのヒアリングも大変難しいのが現状です。今回は宮崎市の観光戦略について宮崎市職員、データやデータ解析については（株）LIXIL のデータサイエンス室長、世界標準の CRISP-DM について大学教員が講義を行い、授業の補足を高校教員が行う産学官連携の講座スタイルでした。 高校生が CRISP-DM 手順を体験し、観光戦略の提案を行うことを目的としました。		【講座風景写真】 	
【講師コメント】 CRISP-DM の流れとして高校生が体験できた点は大きな成果である。回帰・クラスター分析の結果をもとに宮崎市の観光施策という具体テーマで「分析→アクション」の価値を実感できた。手法整理や結果解釈にも挑戦し、教科書だけでは得られない実践的な洞察力と意思決定の視点を育む機会となった。 （株式会社 LIXIL データサイエンス室長 片所 剛）			

講座名		教育機関・地域と連携した防災教育 (第15回ストリートウオッチング)	
実施期間 回数	事前授業：令和7年11月7日（火）：1回 地域調査：令和7年11月26日（水）、27日（木）：2回 事後授業：令和7年12月23日（火）：1回	全 4 回	
会場	事前授業：西池小学校 地域調査：中央西自治区内		
講師	事前授業：宮崎公立大学 准教授 山下 裕亮 事後授業：気象予報士 尾崎 尚之、宮崎公立大学 特任准教授 新村 拓也		
共催者	西池小学校、中央西まちづくり推進委員会		
後援	なし		
その他スタッフ	なし		
受講料	無料		
配付資料等	なし		
募集定員	なし		
(募集条件)	なし		
参加者数	小学校参加者： 100名（小学生+教員） 地域の参加者： 30名 学生： 2名		
【講座の内容】		【講座風景写真】	
本活動は、将来を担う子供たちへの防災教育として、平時から災害に備えた取り組みを、地域内の学校・企業・組織と一緒に実践活動を行いながら、地域の役割や自分にもできることを理解してもらい、さらに子供たちを通して保護者等の若い世代の地域参加を促すことを目的としている。 事前授業においては、山下教員から、地震や津波、洪水など災害時に必要な心構え、特に普段から考えておくべきことについて学んだ。 地域調査では、危険箇所や災害時に重要となる避難場所などを知るために、地域住民の方に過去の災害の話の聞いたり、地域の様々な施設に行ったりして、地域の災害時の対応について様々な方の話を聞いた。本学の学生は地域の方と一緒に同行し、サポート役として参加した。 その後、事後授業として、ストリートウオッチングを終えての振り返りを行った。東日本大震災を経験した気象予報士の尾崎氏を迎え、参加児童は、今後想定される災害に向けてまず何から始めていくかについて考えてもらった。		  	
【講師コメント】			
本年度も、事前授業、地域調査、事後授業の流れで実施しました。私も全てに参加させていただきながら、子どもたちが実際に歩き、考え、話し合うことで、防災が“自分ごと”として根付いていくことを改めて実感しました。 毎年ではありますが、地域調査を担当して頂いた中央西まちづくり推進委員会の地域の皆さんには、調査する施設との連絡調整、地域を回る地図作成、地域の過去の災害をまとめた冊子の作成など、丁寧に準備をして頂いたことに感謝いたします。合わせてご協力いただいた学校関係者の皆さま、地域の皆さまに心より感謝申し上げます。私自身は昨年度から参画させていただいていますが、この活動は、本年度で15回目となります。引き続き、継続的な学びと実践の場づくりを通じて、地域の防災力向上に貢献してまいります。			

講座名		岐路に立つドイツ政治	
実施期間 回数	令和7年11月29日（土）15時00分～17時00分	全 1 回	
会場	宮崎公立大学 103 大講義室		
講師	東京大学大学院法学政治学研究科 教授 板橋 拓己 講座企画・司会 宮崎公立大学 准教授 下村 太一		
共催者	なし		
後援	なし		
その他スタッフ	学生アルバイト1名		
受講料	無料		
配付資料等	講座資料		
募集定員	50 名		
対象	一般市民、学生		
受講者数	55 名		
【講座の内容】		【講座風景写真】	
ドイツ政治外交史研究の第一人者である板橋拓己氏をお招きし、現在のドイツの政治状況とその背景、今後の展望についてご講演いただいた。 講演ではまず、ヨーロッパ諸国では長年、既成政党が極右勢力を封じ込める戦略を採ってきたが、近年では極右の伸長を抑えることが困難になりつつあることが指摘された。続いて、2024年のシュルツ政権の崩壊から2025年のメルツ政権の発足に至るまでの政治過程が詳しく紹介された。特に2025年のドイツ連邦議会選挙において中道政党が埋没する一方、極右政党「ドイツのための選択肢 (AfD)」が第二党に躍進した背景について丁寧に解説された。			
【講師コメント】			
予想を上回る多くの方にご来場いただいた。参加者の年代は10代から70代まで幅広く、高校生・大学生から社会人まで多様な層にご参加いただいた。質疑応答の時間に参加型会議アプリ「Slido」で質問を受け付けたところ、26件に及ぶ質問が寄せられ、予定時間を延長するほど活発な議論が行われた。さらに、講座後のアンケートでは好意的なコメントが数多く寄せられた。 講座企画者として、参加者の皆様、講師を務めてくださった板橋先生、開催にご協力いただいた教職員の皆様に心より感謝申し上げます。			

宮崎公立大学自主講座

岐路に立つドイツ政治

- ・ 講師：板橋 拓己氏（東京大学教授）
- ・ 日時：11月29日（土）15:00～17:00
- ・ 会場：宮崎公立大学 研究講義棟 1階
103大講義室

トランプ政権の再登場やウクライナ戦争の長期化、イスラエルによるガザ侵攻など、国際情勢の不確実性が高まる中で、ドイツ政治は今、岐路に立っています。

本講座では、ドイツ政治外交史研究の第一人者である板橋拓己氏をお招きし、現在のドイツの政治状況とその背景、今後の展望についてお話しいたします。

板橋 拓己（いたばし たくみ）氏

東京大学大学院法学政治学研究科教授。1978年生まれ。専門は国際政治史、ヨーロッパ政治史。著書に、『中欧の模索—ドイツ・ナショナリズムの系譜』（創文社、2010年）、『アデナウアー—現代ドイツを創った政治家』（中公新書、2014年）、『黒いヨーロッパ—ドイツにおけるキリスト教保守派の「西洋」主義、1925～1965年』（吉田書店、2016年／日本ドイツ学会奨励賞受賞）、『分断の克服 1989-1990—統一をめぐる西ドイツ外交の挑戦』（中公選書、2022年／大佛次郎論壇賞受賞）など。

講座企画・司会 下村 太一（宮崎公立大学准教授）

入場無料、事前申込制

11月24日（日）までにQRコードよりお申込みください。

お問合せ先

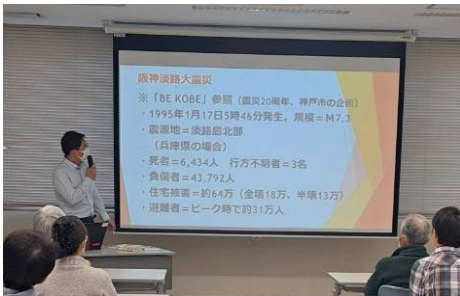
宮崎公立大学 地域連携推進係（凌雲会館2階）

TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）

メール：mmurre@miyazaki-mu.ac.jp



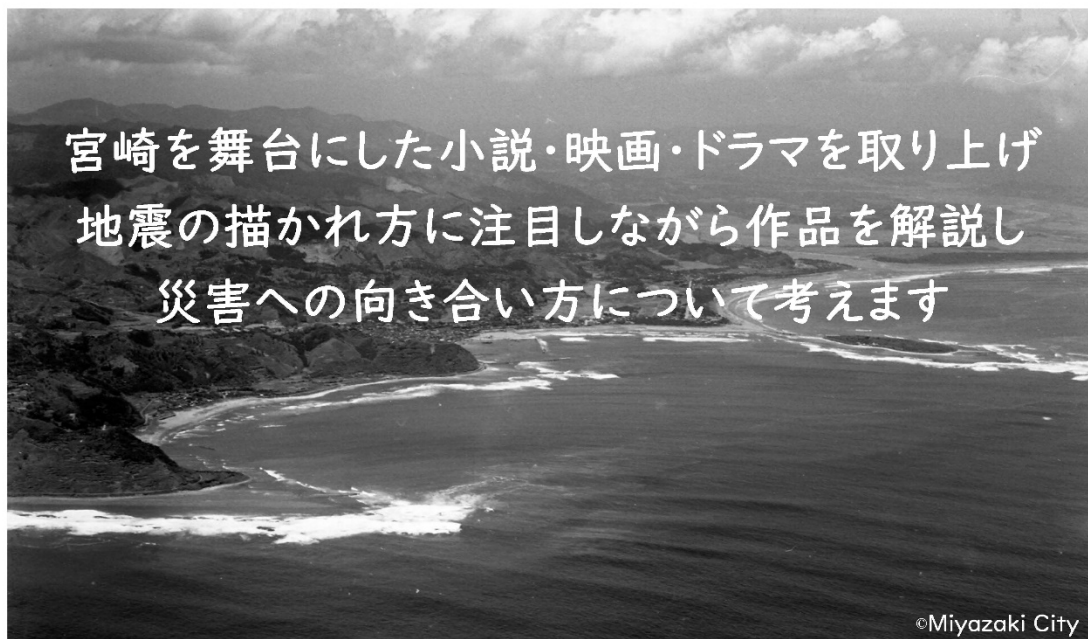
お申込みはこちらのQRコードから

講座名	物語から読む地震—『すずめの戸締まり』『わかば』を例に—	
実施期間 回数	令和8年2月7日（土）13時00分～15時00分	全1回
会場	宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室	
講師	宮崎公立大学 准教授 楠田 剛士	
共催者	なし	
後援	なし	
その他スタッフ	なし	
受講料	無料	
配付資料等	講座資料	
募集定員	30名	
対象	一般市民	
受講者数	17名	
【講座の内容】 前半は『すずめの戸締まり』を取り上げた。大ヒットアニメ映画だが、小説版・漫画版がある。冒頭は過去と未来が混在した夢であり、登場する蝶は夢と現実のあいまいさを示している。作中には災いをもたらす「後ろ戸」だけではなく、玄関、自転車、踏み切りなど様々な開閉が描かれ、すずめは蝶のように行き来する。すずめの本棚には受験参考書や看護系の本が並び、母親と同じ看護師を目指していることが窺える。本棚にはそれ以外にも、青春小説、ベストセラー、ノーベル文学賞などフィクションも多い。古今東西の読書によって培われた想像力は、未知の災害・非日常の物語を受容し、行動する力になっていることを解説した。 後半は『わかば』を取り上げた。連続テレビドラマ作品だが、活字化された小説版も存在する。物語は1995年の阪神・淡路大震災を背景とし、神戸市と宮崎県日南市が舞台となる。被災した主人公が宮崎に移り住み学校に通うこと、主人公が父と同じ建築の仕事を目指すこと、弟の見る夢が震災の記憶を呼び戻すこと、宮崎を出発し被災地へ向かうことなど、『すずめの戸締まり』と『わかば』にはいくつもの大きな共通点があることを解説した。		
【講座風景写真】 		
【講師コメント】 解説では、一つの作品を小説・漫画・映像といった複数の表現から分析した。さらに二作品の共通点も指摘できたことは成果として今後の研究に生かしたい。高校生から70代まで、幅広い年代に参加いただき、普段の講義と異なる新鮮さがあった。市外からきた参加者もあり、文学作品への市民の高い関心を知ることができた。		

2025 年度 宮崎公立大学自主講座

物語から読む地震

——『すずめの戸締まり』『わかば』を例に——



2026 年 2 月 7 日 (土) 午後 1 時～ 3 時 (12 時 30 分開場)

講師：楠田 剛士 (宮崎公立大学准教授／日本近代文学研究)

会場：宮崎公立大学 凌雲会館2階 共同研究室

定員：30名 (先着・受講無料)

申込：QRコードを読み取り、必要事項をご入力ください

無料託児について

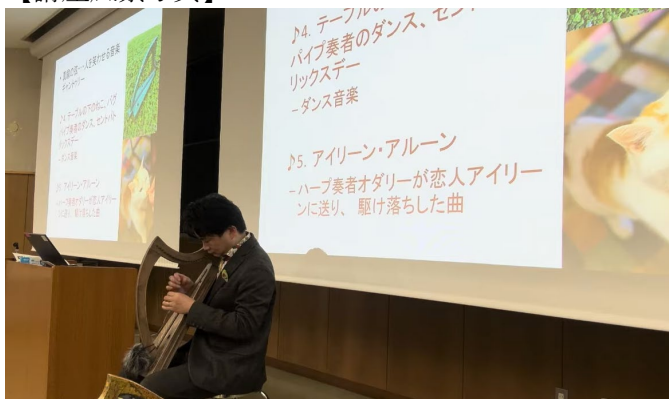
大学内に無料託児所 (小学生以下) を準備します。申込締切：2月1日 (日)

託児希望の方は、QRコードより必要事項をご入力ください。

※ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。



宮崎公立大学 地域連携推進係 電話：0985-20-4772 (土・日、祝を除く 9:00～17:00)
メールアドレス：mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講 座 名		アイリッシュハープの世界	
実施期間 回数	令和8年 2月20日（金）18時00分～20時00分	全 1 回	
会 場	宮崎公立大学 103 大講義室		
講 師	金属弦アイリッシュハープ奏者 寺本 圭佑 企画 宮崎公立大学 准教授 村上 幸太郎		
共 催 者	なし		
後 援	なし		
その他スタッフ	学生アルバイト3人		
受講料	無料		
配付資料等	なし		
募集定員	30名		
対 象	本学学生および市民		
受講者数	69名		
【講座の内容】		【講座風景写真】	
本講座では金属弦ハープ奏者である寺本圭佑氏をお招きし、演奏と楽器の解説をしていただいた プロの音楽家であると同時に、アイルランドの音楽史の研究者でもある寺本氏による解説は、楽曲の旋律や楽器の構造などの話にとどまらず、アイルランドの文化や歴史など、幅広い範囲を網羅するものであった。 『ダニー・ボーイ』のような日本でも有名な楽曲からあまり知られていない曲まで13曲演奏され、演奏会としても贅沢な時間であった。			
【講師コメント】			
受講者数も多く、大変盛り上がった講座になった。講演を聞いてアイリッシュハープやアイルランドに興味を持った参加者も多かったようで、終了後も多くの参加者の方が先生を取り囲んで質問をされていた。アンケートの回答を見ても非常に満足度が高く、演奏に魅了されたという声が多かった。今後また何らかの形で寺本先生をお招きし、演奏会などを実現できればと思う。最近、本学ではアイルランドへの私費留学をする学生が増えているが、今回の講座をきっかけにアイルランドに興味を持つ学生がいたら幸いである。			

宮崎公立大学自主講座

アイリッシュ・ハープの世界

金属弦アイリッシュ・ハープの演奏者であり、アイルランド伝統音楽の研究者でもある寺本圭佑氏をお迎えし、演奏と楽曲の解説を通じてアイルランドの歴史やケルト文化について紹介していただきます。美しいアイリッシュ・ハープの音色をぜひお楽しみください。

日時：2026年2月20日（金）18:00～20:00

講師：寺本 圭佑

（金属弦アイリッシュ・ハープ奏者）

進行：村上 幸一郎

（宮崎公立大学 准教授）

対象者：どなたでもお気軽にご参加ください

受講料：無料

会 場：宮崎公立大学 103大講義室

申込方法：右下のQRコードよりお申し込みください

申込期限：2026年2月15日（日）



お問合せ先 宮崎公立大学 地域連携推進係（凌雲会館2F）

TEL: 0985-20-4772（土・日・祝日を除く9:00～17:00）

E-mail: mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

※ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営及び統計分析に使用し、これらの目的以外には使用することはありません。

※受講の案内は2月17日までにメールでお知らせします。迷惑メール防止設定をされている方は、必ず「@miyazaki-mu.ac.jp」からのメールを受信できるように設定をお願い致します。



申込用QRコード

講 座 名		中高生と大人のための「使える英語」講座 Vol. 4	
実 施 期 間 回 数	令和 8 年 3 月 7 日（土）13 時 00 分～14 時 00 分 14 時 45 分～15 時 45 分	全 2 回	
会 場	宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室		
講 師	宮崎公立大学 教授 松本 祐子		
共 催 者	なし		
後 援	なし		
その他スタッフ	学生アルバイト 3 人		
受 講 料	無料		
配付資料等	講座資料		
募 集 定 員	各回 30 名		
対 象	中高生及び一般		
受 講 者 数	27 名		
【講座の内容】		【講座風景写真】	
身体のパーツを英語で確認し、それを用いた慣用表現を紹介した。慣用表現の意味を、例文の中で推測してもらい、その理解を基に各自オリジナルの例文を作成・発表してもらった。最後に講座内で紹介した表現を復習するためのマッチングクイズをして終了した。			
【講師コメント】			
具体的で身近な例を挙げ、実際につかうことで表現を定着させることを目的に講座を行いました。日本語表現と比較したり、イメージと関連付けられるような事例を出したりしながら、できるだけ対象表現を記憶しやすい工夫をしました。3～4 人のグループを作り、それぞれに Teaching Assistant を配置しました。TA の学生が自主的に学習サポートに入ってくれたので、受講生は積極的に質問等をし、講座に参加されていたように思います。			

R7年度 宮崎公立大学自主講座

中高生と大人のための 「使える英語」講座 vol. 4



「語彙や文法を暗記するのが大変!」と思っているみなさん、
もっと効率的に学べて、使える英語に出来る方法があります。
今回はレベルにあわせ「英語表現を広げる」方法について学びます。
英語が苦手な人も、得意な人も、一緒に試してみませんか?

講 師 松本 祐子 (宮崎公立大学 教授)

日 時 3月7日(土) *成人の方も歓迎

●13:00-14:00 (英検3級レベル)

●14:45-15:45 (英検準2級・2級レベル)

会 場 宮崎公立大学 凌雲会館2階 共同研究室

定 員 各回とも30名程度 (応募多数の場合抽選)

受講料 無料



←QRコードから申し込み
締め切り: 3月1日(日)



※受講の決定は3月3日までにメールでお知らせします。迷惑メール防止設定をされている方は、必ず「@miyazaki-mu.ac.jp」からのメールを受信できるように設定をお願いします。

※ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営及び統計分析に使用し、これらの目的以外には使用することはありません。



Googleマップで検索される場合は
『宮崎公立大学凌雲会館』と入力
してください

お問合せ先 宮崎公立大学 地域連携推進係(凌雲会館2階)
TEL: 0985-20-4772 (土・日、祝日を除く9:00~17:00)
E-mail mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講 座 名	ステレオタイプ化の何が悪いのか？	
実 施 期 間 回 数	令和 8 年 3 月 7 日（土） 15 時 00 分～17 時 00 分	全 1 回
会 場	宮崎公立大学 201 中講義室	
講 師	國學院大学・実践女子大学 非常勤講師 木下 頌子 企画・司会 宮崎公立大学 准教授 八重樫 徹	
共 催 者	なし	
後 援	なし	
その他スタッフ	学生アルバイト 2 名	
受 講 料	無料	
配付資料等	講座資料	
募 集 定 員	60 名	
対 象	一般	
受 講 者 数	36 名	
【講座の内容】 「女性は感情的だ」「日本人は自己主張しない」など、特定の集団と一定の性質を結びつけるステレオタイプを用いて判断・行動することは、どのような場合になぜ悪いのか。この哲学的・倫理的問いに関する最新の研究を紹介しながら、さまざまな具体例をもとに、私たちが日常的におこなっているステレオタイプ化を問い直し、道徳的に問題のあるステレオタイプ化にどう向き合うべきかを考察した。		
【講座風景写真】 		
【講師コメント】 哲学（特に分析哲学）に馴染みのない参加者も多かったと思われるが、テーマが身近なもので、具体例も多かったので、参加者の理解度・満足度は高かった。講座のレベルもちょうどよかったという意見が多かった。質疑応答では多くの質問が出て、時間が足りないほどだった。		

宮崎公立大学自主講座

ステレオタイプ化の 何が悪いのか？

講師：木下 頌子氏

（國學院大学・実践女子大学 非常勤講師）

司会・企画：八重 檉 徹

（宮崎公立大学 准教授）

「日本人は勤勉だ」「女性は感情的だ」といった発言はしばしば
ステレオタイプ化として批判の対象になります。

しかし、ステレオタイプ化はなぜ問題なのでしょう？
この講座では、そもそも「ステレオタイプ化」とは何か、そして
どのような場合になぜ悪いと言えるのか、という問題に関して、
最新の分析哲学の研究を紹介しつつ受講者とともに考えます。

2026年3月7日（土）
15:00～17:00

研究講義棟2F 201中講義室

参加無料



参加申込は
こちらから

お問合せ先：宮崎公立大学 地域連携・防災研究センター
TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）
Email：mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講 座 名	宮崎発！海外進出のための 貿易&ブランディング基礎講座	
実 施 期 間 回 数	令和8年 3月11日（水）13時00分～15時00分 令和8年 3月16日（月）13時00分～15時00分 令和8年 3月18日（水）18時00分～20時00分	全 3 回
会 場	宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室	
講 師	テロワール九州 代表 八田 淳 株式会社川上木材 貿易事業部 森 万理子 宮崎公立大学 講師（現・特任講師） 中村 勝志 企画・司会 特任准教授 新村 拓也	
共 催 者	なし	
後 援	なし	
その他スタッフ	学生アルバイト1名	
受 講 料	無料	
配付資料等	なし	
募 集 定 員	各回10名	
対 象	貿易に関心のある市民	
受 講 者 数	15名（のべ受講者27名）	
【講座の内容】 本イベントは、宮崎から海外展開を目指す事業者や関心のある人を対象にした全3回の基礎講座です。講師の実践経験をもとに、海外輸出の基本的な流れ、必要な手続き、関税や関連法規などの貿易実務の基礎を学ぶとともに、自社商品や地域資源の魅力を海外市場にどう伝えるかを考えます。あわせて、海外とのやり取りで役立つコミュニケーションについて、生成AIを活用したメール・資料作成など、実務に直結する方法も扱います。参加者同士の対話も重視し、自分たちの商品やアイデアの可能性を整理しながら、海外進出に向けた次の一步を明確にする内容です。		
【講座風景写真】 		
【講師コメント】 今回の講座は平日開催であったにもかかわらず、各回とも定員を上回る申込みをいただき、貿易や海外進出に対する関心の高まりを強く実感する機会となりました。特に、参加者の関心は畜産や食に関する分野に集中しており、宮崎の地域資源を海外市場へどう展開していくかについて、具体的なニーズが着実に存在していると感じました。講座内では、基礎的な知識の習得にとどまらず、参加者同士が対話しながら自社商品や地域の強みを見つめ直す場面も見られ、学びと実践をつなぐ意義の大きさを改めて認識しました。また、各講師のお話はいずれも実践に根ざしており、大変学びの多い内容でした。八田様からは、相手の文化や生活背景まで踏まえて価値を伝えるブランディングの視点を学び、森様からは、これまでの豊富な経験に基づく具体的な貿易実務のお話を伺うことができました。さらに、本学の中村先生からは、ワークを通して実践的に文章を作成する方法をご紹介いただき、参加者にとって今後に直結する学びになったと感じています。本当に有難うございました。		

宮崎から世界へ。実践者と語り、学ぶ、海外展開ゼミ

参加費無料

宮崎発！ 海外進出のための 貿易＆ブランディング 基礎講座（全3回講座）

第1回

3.11 水 13:00-15:00

この講座で得られること

第2回

3.16 月 13:00-15:00

☑ 海外輸出の基本的な流れが分かる

第3回

3.18 水 18:00-20:00

☑ 海外へどう伝えるか整理できる

☑ 次のステップが見えてくる

会場：宮崎公立大学 凌雲会館2階 共同研究室2（宮崎市船塚1丁目1番地2）

講師の実践経験を聞きながら、参加者同士でも対話し、
自分たちの商品やアイデアの可能性、次の一步を一緒に整理する対話型講座です。

講師 第1回



八田 淳 氏

テロワール九州 代表

海外市場を意識しながら、宮崎の食や商品の魅力や強みをどのように伝えるかを考え、輸入者や消費者の視点を取り入れたブランドづくりや販路展開の方向性を整理します。

第2回



森 万理子 氏

株式会社川上木材 貿易事業部

海外輸出の基本的な流れや必要な手続き、関税や関連法規など、初めて輸出を考える方にも分かりやすく貿易実務の基礎を学び、自社商品の海外展開に向けた準備や課題を整理します。

第3回



中村 勝志 氏

宮崎公立大学 講師

貿易取引や海外とのやり取りで役立つ基本的な英語表現や交渉フレーズを学ぶとともに、生成AIを活用したメールや資料作成など、実務に生かせるコミュニケーション方法を学びます。

お申込みはこちらから（各回定員10名） ※1回だけの受講も可能です

2次元コード、もしくは<https://forms.gle/Bad5aT6RDUI4hwm7>からお願いします。

お問い合わせ

宮崎公立大学 地域連携・防災研究センター
担当：新村

TEL 0985-20-4778
MAIL shinmura@miyazaki-mu.ac.jp



講座名		敗戦 80 年、海を渡った人たちの軌跡	
実施期間 回数	令和 8 年 3 月 21 日（土）15 時 00 分～17 時 00 分	全 1 回	
会場	宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール		
講師	立命館大学 教授 飯田 未希 東京未来大学 教授 田中 真奈美 宮崎公立大学 講師 金子 龍司		
共催者	JSPS 科研費（基盤研究 B）「女性たちはなぜ南洋に向ったのか―戦前・戦中の女性の移動と南洋研究の再考」（課題番号：22H03863）		
後援	なし		
その他スタッフ	なし		
受講料	無料		
配付資料等	講座資料		
募集定員	50 名		
対象	一般市民		
受講者数	40 名		
【講座の内容】 ①田中真奈美（東京未来大学・教授） 「日系アメリカ人の社会的地位の獲得―戦後のサンフランシスコ日系二世・三世の事例から―」 ②金子龍司（宮崎公立大学・講師） 「宮崎県へのパラオ引揚者たち」 ③飯田未希（立命館大学・教授） 「戦時下、外地で就職した女性たち」		【講座風景写真】 （田中講師）  （飯田講師） 	
【講師コメント】 本講座は継続中の科研プロジェクトの成果還元の一環として実施し、研究の最前線を披歴して宮崎県の方々とともに考えることを目的とした。 田中講師（東京未来大学、異文化コミュニケーション）からは、アメリカの日系二世、三世に係る社会的地位の確立と日系文化の継承に対する態度の相違に焦点があてられた。金子（本学、日本近現代史）からは、宮崎県へのパラオ引揚者の軌跡を論じた。飯田講師（立命館大学、文化研究、ジェンダー研究）からは、戦時下内地から就職のために海を渡った独身女性たちの姿が活写された。 小学生からシニア世代までの受講者があり、盛況を呈した。講師講演ののち真剣な質疑応答が繰り広げられ、4 人の方に発言いただいたのち、時間的制約から惜しくも盛会哩に終了した。			

宮崎公立大学自主講座

敗戦80年、 海を渡った

人たちの軌跡

3月21日(土) 15時～17時
会場：宮崎公立大学交流センター多目的ホール

登壇者

田中 真奈美 〈東京未来大学教授〉

二十世紀、海を渡った日本人たち

金子 龍司 〈宮崎公立大学講師〉

宮崎県へのパラオ引揚者たち

飯田 未希 〈立命館大学教授〉

海を渡った独身女性たち



●お申込みいただいた際に確認のメールを送りさせていただきますので、
「@miyazaki-mu.ac.jp」からのメールを受信できるように設定をお願いします。
●ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種講座の運営および統計分
析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。

対象 高校生以上の方であればどなたでも受講いただけます。
定員 50名程度（事前申し込みが必要ですが、）
受講料 無料
申込 左側に表示されているQRよりお申込みください。

※本講座は、JSPS科研費（基盤研究B）「女性たちはなぜ南洋に向かったのかー戦前・戦中の女性の移動と南洋研究の再考（研究代表者：飯田未希）」（課題番号：22H03863）による研究成果公開の取組との共催にて実施いたします。

お問合せ

宮崎公立大学 RDRC

地域連携・防災研究センター

Regional Cooperation and Disaster Mitigation Research Center

TEL:0985-20-4772 / mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp 土・日・祝を除く9時～17時



3. 令和7(2025)年度 語学講座

No.	講座名	講師	講座内容	日程
1	英語中級	宮崎公立大学 教授 Scott Bingham	・前期・後期 各10回 2回開講 ・英語の基礎、簡単な会話ができる人を対象に受講者を募集 ・募集定員 各40名 ・その時々話題を講師が提供し、受講生は、その話題についてグループに分かれて英語でディスカッションします	前期 5月14日～ 7月16日 後期 10月8日～ 12月10日 毎週水曜日 18時00分～ 19時30分
2	中国語初級	宮崎公立大学 日中文化交流促進部(学内課外活動団体)の学生	・前期・後期 各10回 2回開講 ・中国語を初めて学ぶ人を対象に受講者を募集 ・募集定員 各30名 ・留学経験のある学生や中国からの留学生、中国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話ができるまで段階的に学びます	前期 5月15日～ 7月17日 後期 10月9日～ 12月11日 毎週木曜日 18時00分～ 19時30分
3	韓国語初級	宮崎公立大学 韓国文化研究部(学内課外活動団体)の学生	・前期・後期 各10回 2回開講 ・韓国語を初めて学ぶ人を対象に受講者を募集 ・募集定員 各15名 ・韓国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話ができるまで段階的に学びます	前期 5月13日～ 7月15日 後期 10月7日～ 12月9日 毎週火曜日 18時00分～ 19時30分
4	楽しく学べる 小学生3・4年生 初級英語教室	宮崎公立大学 グローバル人材養成プログラム講師 (現・特任講師) 中村 勝志	・全4回 ・全4回を受講できる英語初心者进行募集 ・募集定員 10名程度 ・初歩的内容で、ゲーム等を通じて英語になれてもらう	令和8年2月 21日(土) 28日(土) 3月 7日(土) 14日(土) 10時00分～ 11時30分

講座名		語学講座 英語中級	
実施期間等	前期 令和7年5月14日～7月16日（全10回） 後期 令和7年10月8日～12月10日（全10回） ＊ 毎週水曜日 18時00分～19時30分	2 回	
会場	宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール		
講師	宮崎公立大学 教授 Scott Bingham		
受講料	無料		
募集定員	各40名 （高校生以上、英語の基礎、簡単な会話ができる人を対象に受講者を募集）		
受講者数	前期51名 ＊応募者全員受講 受講者延べ数：362名 後期55名 ＊応募者全員受講 受講者延べ数：345名		
【講座の内容】 その時々話題を講師が提供し、受講生がグループに分かれてその話題について英語でディスカッションを行う。			
【受講者感想 ※アンケートから抜粋】 ・参加者の方との交流、とても楽しい時間でした。また、Scott 先生がすごくおもしろくて英語の教え方もわかりやすく毎回、楽しく講座に参加する事ができました ・受講生の年齢層は幅広く、男女比も偏りなく毎回楽しく学ぶことができました。また、いろいろな方と学習法を聞いたりして啓発されました。 ・気軽に参加できました、色々な人とお話や交流ができてとても楽しかったです。自分の英語レベルに関係なく存在感を味わうことができてよかったです。			

講座名		語学講座 中国語初級	
実施期間等	前期 令和7年 5月15日～ 7月17日（全10回） 後期 令和7年 10月9日～12月11日（全10回） ＊ 毎週木曜日 18時00分～19時30分	2 回	
会場	宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール		
講師	宮崎公立大学 日中文化交流促進部(学内課外活動団体)の学生		
受講料	無料		
募集定員	30名 (高校生以上、中国語を初めて学ぶ人を対象に受講者を募集)		
受講者数	前期 20名 受講者延べ数：120名 後期 29名 受講者延べ数：215名		
【講座の内容】 留学経験のある学生や中国からの留学生、中国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話が理解できるまでを学ぶ。			
【受講者感想 ※アンケートから抜粋】 ・ 中国語の導入として講座を楽しむことができました。1人1人に寄り添い丁寧に教えていただきありがとうございました。 ・ 距離が近くて安心して質問をすることが出来ました。音が出せるようになるまで時間をかけて付き添っていただいた事もありました。おいていかれる事もなく最後まで応援していただきありがとうございました。			

講 座 名		語学講座 韓国語初級	
実施期間等		前期 令和7年 5月13日～ 7月15日（全10回） 後期 令和7年10月 7日～12月 9日（全10回） ＊ 毎週火曜日 18時00分～19時30分	2 回
会 場		宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール	
講 師		宮崎公立大学 韓国文化研究部(学内課外活動団体)の学生	
受 講 料		無料	
募 集 定 員		15 名 (高校生以上、韓国語で簡単な読み書きができる方を対象に受講者を募集)	
受 講 者 数		前期 20 名 受講者延べ数：142 名 後期 24 名 受講者延べ数：180 名	
【講座の内容】 韓国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話が理解できるまでを学ぶ。			
【受講者感想 ※アンケートから抜粋】 ・大学生の方々がみなさん優しくて、質問をした際には丁寧に教えてくださり、本当に身に付ける事が出来たと感じています！ ・このような機会を無料で設けてくれてありがたかった。学生さんが 1 対 1 で質問を受けてくれて分かりやすかった。 ・韓国語をいつも丁寧に教えてくださったおかげで、自分で少し勉強している以上にとっても深く理解して学べたので本当にありがたかったです。			

令和7年度 宮崎公立大学 前期語学講座

受講者募集

韓国語初級：火曜日 定員15名 講師：韓国文化研究部（本学学生）
・韓国語の発音基礎から始めて、簡単な日常会話までを学びます。
（初心者に限る）

英語中級：水曜日 定員40名 講師：スコットビンガム教授
・講師から出された課題を英語でディスカッションします。
（基本的な英会話や読み方のできる方）

中国語初級：木曜日 定員30名 講師：日中文化交流促進部（本学学生）
・中国語の発音基礎から始めて、簡単な日常会話までを学びます。
（初心者に限る）

※中国語初級の受講にはテキスト(オンライン教材付)の購入(2,420円 税込み)が必要です。
テキストの購入につきましては、講座の受講決定メールにて案内いたします。

講座日程等：令和7年5月13日（火）～ 7月17日（木）
18時00分～19時30分 全10回

対 象：高校生以上（全10回をおおむね受講できる方）
※各講座とも定員をオーバーした場合抽選となります。

会 場：宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール

受 講 料：無料（中国語初級のみテキスト代が必要）

申込方法

右の申込QRコードまたは、下記のURLより
お申込みください。

URL：https://forms.gle/BCx6WGiQWVvY5Vgzf8

申込締切 4月20日（日）

受講の決定はメールにてお知らせしますので、

@miyazaki-mu.ac.jp の受信許可設定をお願いします。

※ご提供いただいた個人情報につきましては、本学が実施している各種講座の運営
及び統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。



お問合せ・申込先

宮崎公立大学 地域研究センター（凌霄会館2階） TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）
E-mail mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

令和7年度 宮崎公立大学 後期語学講座

受講者募集

韓国語初級：火曜日 定員15名 講師：韓国文化研究部（本学学生）
・韓国語の発音基礎から始めて、簡単な日常会話までを学びます。
（初心者に限る）

英語中級：水曜日 定員40名 講師：スコットビンガム教授
・講師から出された課題を英語でディスカッションします。
（基本的な英会話や読み方のできる方）

中国語初級：木曜日 定員30名 講師：日中文化交流促進部（本学学生）
・中国語の発音基礎から始めて、簡単な日常会話までを学びます。
（初心者に限る）

※中国語初級の受講にはテキスト(オンライン教材付)の購入(2,420円 税込み)が必要です。
テキストの購入につきましては、講座の受講決定メールにて案内いたします。

講座日程等：令和7年10月7日（火）～ 12月11日（木）
18時00分～19時30分 全10回

対 象：高校生以上（全10回をおおむね受講できる方）
※各講座とも定員をオーバーした場合抽選となります。

会 場：宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール

受 講 料：無料（中国語初級のみテキスト代が必要）

申込方法

右の申込QRコードまたは、よりお申込み
ください。

申込締切 9月21日（日）

受講の決定案内は、締切後メールにて

お知らせしますので、@miyazaki-mu.ac.jp

の受信許可設定をお願いします。

※ご提供いただいた個人情報につきましては、本学が実施している各種講座の運営
及び統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。



お問合せ・申込先

宮崎公立大学 地域連携推進係（凌雲会館2階） TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）
E-mail mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講座名		楽しく学べる小学3・4年生初級英語教室	
実施期間 回数	令和8年2月21日、28日、3月7日、14日（土） 10時00分～11時30分	全4回	
会場	宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室2		
講師	宮崎公立大学 第二種非常勤講師（現・特任講師） 中村 勝志		
共催者	なし		
後援	なし		
その他スタッフ	学生アルバイト16名		
受講料	無料		
配付資料等	あり		
募集定員	10名程度		
対象	全4回受講できる英語初心者の方		
受講者数	19名（のべ受講者64名）		
【講座の内容】 ・アルファベットの大文字と小文字の違い、名前のローマ字表記、日常生活で使う単語やフレーズの書き方・発音方法を学習した。 ・4～5人のグループで、トランプやフラッシュカードを使った競争型のゲームなど、グループ内で楽しみながら学べる活動を多く行った。		【講座風景写真】 	
【講師コメント】 カードゲームやソングなどの活動を取り入れ、楽しみながら英語に触れることを目的として英語教室を実施した。参加した児童からは「楽しかった」「また参加したい」といった声があり、児童にとって肯定的な学習経験につながったものと感じている。学生アシスタントのサポートもあり、子どもたちが英語に親しめる学習の場となった。			



小学 3・4 年生対象

全4回
受講料無料

楽しく学べる 小学生英語教室

Fun English Class for Elementary School Students

ゲームや会話を通して、英語にふれて、使ってみて楽しさを感じてもらおう教室です
英語初心者向けの内容なので、誰でも安心してご参加いただけます

overview
講座概要

日程 (全4回)
2月21日(土) / 2月28日(土)
3月7日(土) / 3月14日(土)
10:00~11:30 (全日程共通)

定員
10名程度 (申し込み多数の場合は抽選)

対象
小学3・4年生で全日程の受講が可能な方
(英語初心者の方に限ります)

講師
中村 勝志
宮崎公立大学グローバル人材養成
プログラム講師
*学生もアシスタントとして参加します

会場
宮崎公立大学凌雲会館2階 共同研究室2
(宮崎市船塚1丁目58)

How to apply
申込方法

下記に表示されている申込用QRコードを読み取り、申込フォームに必要事項をご入力の上、お申し込みください。

▼ 申込締切

2026年
2月8日
(日曜日)

▼ 申込用QRコード

留意事項

- 受講の可否については、お申込みいただいた際に登録されたメールアドレス宛にお送りいたします(2月10日頃)。2月10日までに届かなかった場合は、下記連絡先までお電話ください。
- @miyazaki-mu.ac.jpからのメールが受信できるよう設定をお願いします。
- ご提供いただいた個人情報は本学実施する各種講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。

2027年4月
国際情報学科新設
(設置構想中)



お問合せ

宮崎公立大学 RDRC 地域連携・防災研究センター
Regional Cooperation and Disaster Mitigation Research Center
TEL:0985-20-4772 / mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp (土・日、祝を除く9時~17時)

TikTok YouTube 公式LINE

4. 令和 7(2025)年度 リカレント教育プログラム

NO.	プログラム名	担当講師	日程・講座会場
1	サービス業従事者のための接客 韓国語講座	宮 崎 公 立 大 学 非常勤講師 (韓国語) 申 允 珠	令和 7 年 5 月 21 日～ 7 月 30 日 毎週水曜日 ※全 10 回+修了認定試験 10 時 00 分～11 時 30 分 宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室
2	サービス業従事者のための接客 英語講座	宮 崎 公 立 大 学 非常勤講師 (英語) Hugh Nicoll	令和 7 年 10 月 1 日～12 月 10 日 毎週水曜日 ※全 10 回+修了認定試験 13 時 30 分～15 時 00 分 宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室

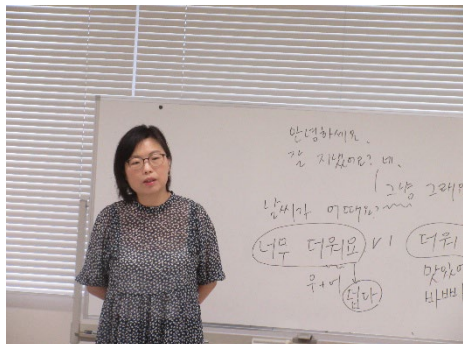
講 座 名	リカレント教育プログラム 「サービス業従事者のための接客韓国語講座」	
実施期間等	令和7年5月21日～7月30日 ＊ 毎週水曜日 10時00分～11時30分	全10回 ＋ 修了認定試験
会 場	宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室	
講 師	宮崎公立大学 非常勤講師(韓国語) 申 允珠	
受 講 料	30,000 円 (教材費等含む)	
対 象	主に宮崎市内のサービス業従事者等	
募 集 定 員	10 名	
受 講 者 数	7 名	

【講座の目的】

広く地域に開かれた大学として、地域における課題の解決や人材の育成に寄与するため、多様な学習ニーズに対応した多様な形態の学生（受講生）の受入を行い、生涯にわたる学び直しの場として、学習の機会を積極的に提供するため、本講座を開講する。

【受講者からの感想】

- ・読むこともできないところからスタートし、今では仕事でも使うことができているのは、先生のおかげです。この講座の続き（第2段）があれば、ぜひ受講したいです。
- ・毎回の講座でテストがあったおかげで学びっぱなしになることなく、しっかりと定着させることができたように思います。韓国語を学ぶのは初めてという他の受講者の方々も韓国語のフレーズをスラスラ話せるようになってきている姿を見てモチベーションとなりました。
- ・近頃韓国からの宿泊客は少なくなっている為、あまり実践の機会はなかったが、自分が実際に使うフレーズを学ぶことができ、業務の中で活かすことができる。



講座スケジュール

回	日 時	内 容
1	5 月 21 日 (水) 10:00～11:30	オリエンテーション、ハングルについて 基本母音
2	5 月 28 日 (水) 10:00～11:30	基本子音
3	6 月 4 日 (水) 10:00～11:30	濃 音 合成母音
4	6 月 11 日 (水) 10:00～11:30	パッチム ハングルで書いてみよう！
5	6 月 18 日 (水) 10:00～11:30	韓国語の簡単な挨拶 自己紹介をしてみよう（名前、居住場所、趣味、特技等）
6	6 月 25 日 (水) 10:00～11:30	フロントでの会話 韓国カルチャー（日韓の違い：生活様式について）
7	7 月 2 日 (水) 10:00～11:30	買い物・ショッピング時の会話 韓国カルチャー（日韓の違い：支払いについて）
8	7 月 9 日 (水) 10:00～11:30	レストランでの会話 韓国カルチャー（日韓の違い：食事について）
9	7 月 16 日 (水) 10:00～11:30	電話対応 韓国カルチャー（日韓の違い：敬語について）
10	7 月 23 日 (水) 10:00～11:30	トラブル・クレーム対応 韓国カルチャー（日韓の違い：ジェスチャーについて）
—	7 月 30 日 (水) 10:00～11:30	修了認定試験 ※合格者に修了認定証を発行

講 座 名	リカレント教育プログラム 「サービス業従事者のための接客英語講座」	
実施期間等	令和7年10月1日～12月10日 ＊ 毎週水曜日 13時30分～15時00分	全10回 ＋ 修了認定試験
会 場	宮崎公立大学 凌雲会館 共同研究室	
講 師	宮崎公立大学 非常勤講師(英語) ヒュー・ニコル	
受 講 料	30,000 円 (教材費等含む)	
対 象	サービス業従事者等	
募 集 定 員	10 名	
受 講 者 数	7 名	

【講座の目的】

広く地域に開かれた大学として、地域における課題の解決や人材の育成に寄与するため、多様な学習ニーズに対応した多様な形態の学生（受講生）の受入を行い、生涯にわたる学び直しの場として、学習の機会を積極的に提供するため、本講座を開講する。

【受講者からの感想】

- ・ Zengengo のようなコンテンツを使って講座外でも個人で練習できたり、メールでも分からないことがあれば聞いてねというフォローが手厚くてすごいなと思いました。
- ・ 先生の講座はとても楽しく、毎週受講を楽しみにしていました。内容も実践に役立つ内容で、実際の業務で使用する機会もあり有意義でした。
- ・ それぞれの人が直面した実際のトラブルをもとに使えるフレーズ等を教えてもらえるので、より実用的な英語を学べる。



講座スケジュール

回	日 時	内 容
1	10 月 1 日 (水) 13:30～15:00	オリエンテーション ～ 観光ビジネスのための英語： アクティブ・ラーニングの戦略
2	10 月 8 日 (水) 13:30～15:00	リズム、アクセント、発音学習： 職業上の挨拶と自己紹介
3	10 月 15 日 (水) 13:30～15:00	場所と時間の前置詞 指示を与える
4	10 月 22 日 (水) 13:30～15:00	数詞と非数詞
5	10 月 29 日 (水) 13:30～15:00	数字：日付、お金
6	11 月 5 日 (水) 13:30～15:00	商品やサービスの説明：メニュー、注文、販売会話
7	11 月 12 日 (水) 13:30～15:00	電話英語
8	11 月 19 日 (水) 13:30～15:00	予約を取る、旅行
9	11 月 26 日 (水) 13:30～15:00	注文、確認、配送先住所
10	12 月 3 日 (水) 13:30～15:00	トラブルシューティング：クレームと苦情
—	12 月 10 日 (水) 13:30～15:00	修了認定試験 ※合格者に後日修了認定証を発行

令和7年度 宮崎公立大学 リカレント教育プログラム 「サービス業従事者のための接客韓国語講座」

受講者募集

- ・日 程：令和7年5月21日（水）～7月30日（水）
※全10回＋修了認定試験
- ・会 場：宮崎公立大学 凌雲会館2階 共同研究室
- ・対象者：サービス業従事者など
- ・定 員：10名
- ・講 師：申 允珠（シン ユンジュ）氏（宮崎公立大学非常勤講師・韓国語）
- ・受講料：30,000円
- ・募集期間：令和7年3月10日（月）～4月21日（月）
- ・申込方法：本学ホームページ内の所定の申込用紙に記入のうえ、
下記問合せ先までメール、FAXにて申し込みください。

※講座スケジュールなどは本学ホームページ（QRコード）
をご覧ください。



お問合せ先

宮崎公立大学 地域研究センター
〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58 凌雲会館2階
TEL：0985-20-4772 FAX：0985-20-4773
メール：mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp
受付時間：平日9:00～17:00



宮崎公立大学 リカレント教育プログラム

「サービス業従事者のための接客英語講座」 受講者募集のご案内（有料）

本講座はサービス業従事者の方やサービス業に興味のある方を対象とし、英語による接客の方法や日本と外国との文化の違いなどを様々な業種・職種に沿った内容で行う講座です。（全10回+修了認定）



講師：宮崎公立大学 非常勤講師（英語）
ヒュー・ニコル（Hugh Nicoll）

募集期間：令和7年7月下旬～9月7日（日）まで

講義日程：令和7年10月1日～12月10日（毎週水曜日）13：30～15：00

場 所：宮崎公立大学 凌雲会館2階（共同研究室）

対 象 者：サービス業従事者及びサービス業に興味のある方

定 員：10名程度

受 講 料：30,000円（テキスト代込み）

詳しくはQRコード（本学ホームページ）をご覧ください。



お問合せ先

宮崎公立大学 地域連携・防災研究センター TEL：0985-20-4772（9:00～17:00 土・日、祝日を除く）

5. 令和 7(2025)年度 開放授業

名 称	担 当 講 師	概 要	期 間
前 期	—	—	—
後 期			
科目名 自然災害と防災・減災 【防災士養成講座】	准教授 山下 裕亮 特任准教授 新村 拓也	宮崎公立大学の講義の一部 を地域住民の皆さまに公開 し、学生と一緒に授業を受け ることができる取り組み。	令和 7 年 9 月～ 令和 8 年 1 月

後期開放授業			
科 目 名	担当教員	定 員	受講者数
自然災害と防災・減災 【防災士養成講座】	准教授 山下 裕亮 特任准教授 新村 拓也	5	2
申 込 期 間	令和7年8月1日（金）～令和7年8月31日（日）		
講 義 機 関	令和7年9月～令和8年1月		
応 募 状 況	【 申 込 件 数 】 2件		
受 講 状 況	【 受 講 者 数 】 2名		
	【 修了証授与者 】 2名		
受 講 料	1科目 5,000円（15回の講義）		
防災士資格 受 験 状 況	【防災士試験受験者】 1名		
	【防災士試験合格者】 1名		

※自然災害と防災・減災の講義を受けることにより、「防災士」の資格取得のための試験の受験資格を取得できます

**宮崎公立大学開放授業
防災士養成講座**

**自然災害と防災・減災
受講者募集のご案内(有料)**



本講座を受講し、一定基準をクリアすれば、**防災士試験の受験資格**を得ることができます。

募集期間▶ 令和7年8月1日(金)～8月31日(日)

授業期間：令和7年9月末～令和8年1月(毎週月曜日 16:20～17:50)

※この期間に90分×15回の講義を実施します

※防災士資格取得試験は令和8年1月に実施予定

場 所：宮崎公立大学(宮崎市船塚1丁目1番地2)

受講資格：18歳以上の方

定 員：5名程度(応募多数の場合は抽選)

受講料：5,000円

※別途、テキスト代4,000円等の費用負担が生じます

お申し込みはこちらのQRコードから▶

インターネットからのお申込み(申込フォームの入力)が必要です。
メール、郵便、FAX、お電話によるお申し込みは受け付けておりません。



◀募集に関する詳細は本学ウェブサイトにてご確認ください。



お問合せ先

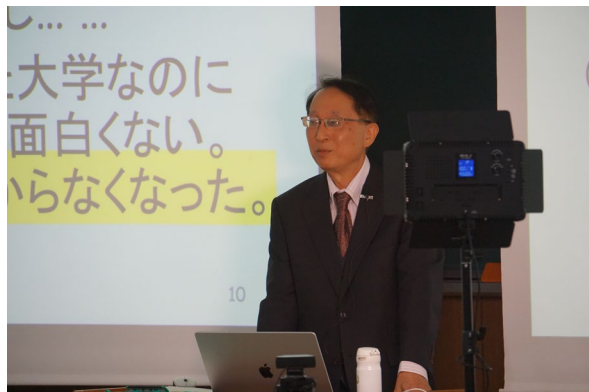
宮崎公立大学 地域連携・防災研究センター TEL：0985-20-4772 (9:00～17:00 土・日、祝日を除く)

6. 令和7(2025)年度 社会教育講座

NO.	講 座 名	担当講師	日程・講座会場
1	英語を親子で楽しもう（英語教育）	教授 松本 祐子	加納地区交流センター 令和7年7月12日（土）
2	英語を親子で楽しもう（英語教育）	教授 松本 祐子	加納地区交流センター 令和7年7月19日（土）
3	よみがえる江戸時代の宮崎	教授 大賀 郁夫	高岡地区交流センター 令和7年9月16日（火）
4	宮崎と現代文学	准教授 楠田 剛士	高岡地区交流センター 令和7年10月8日（水）
5	よみがえる江戸時代の宮崎	教授 大賀 郁夫	住吉地区交流センター 令和7年10月20日（月）
6	宮崎と現代文学	准教授 楠田 剛士	久峰地区交流センター 令和7年10月22日（水）
7	よみがえる江戸時代の宮崎	教授 大賀 郁夫	生目地区交流センター 令和7年10月24日（金）

7. 令和 7(2025)年度 その他講座・講演・講義

講 演 名	担 当	概 要	日 程
退職教員最終講義 英文法を楽しむー 行き詰まりはチャ ンス	宮崎公立大学 教授 福田 稔	私が英語学（英語の規則性、つまり英文法をデータと理論で解明する学問）を学び始めたのは、学部 3 年生の頃（1981 年）でした。実は、そのときから行き詰まりの連続だったのです。英語は大好きなのに、論文は読んでもわからない。解決案が浮かばない。留学のチャンスがないー。しかし今思うと、行き詰まりは「新しい何か」が始まるシグナルでした。私自身の体験談と恩師との出会いを手がかりに、行き詰まりをチャンスに変えながら英文法の解明に取り組んできた 45 年を振り返ります。	令和 8 年 2 月 13 日（金） 18:30～20:00

最終講義	英文法を楽しむ—行き詰まりはチャンス	
実施日時等	令和 8 年 2 月 13 日（金）18 時 30 分～20 時 00 分	全 1 回
会 場	宮崎公立大学 103 大講義室 宮崎公立大学より Web 会議システム Zoom を利用して配信	
講 師	宮崎公立大学 教授 福田 稔	
受 講 料	無料	
配付資料等	なし	
募 集 定 員	なし	
対 象	一般市民・本学卒業生・本学在校生・本学関係者	
受 講 者 数	対 面 参 加 者： 69 名 オンライン参加者： 40 名	
【講師による講義内容の紹介】 私が英語学（英語の規則性、つまり英文法をデータと理論で解明する学問）を学び始めたのは、学部 3 年生の頃（1981 年）でした。実は、そのときから行き詰まりの連続だったのです。英語は大好きなのに、論文は読んでもわからない。解決案が浮かばない。留学のチャンスがない。しかし今思うと、行き詰まりは「新しい何か」が始まるシグナルでした。私自身の体験談と恩師との出会いを手がかりに、行き詰まりをチャンスに変えながら英文法の解明に取り組んできた 45 年を振り返ります		
【講義風景写真】 		

宮崎公立大学 福田 稔 教授 最終講義

開催日：2026年2月13日(金)
時 間：18:30-20:00 (受付18:00-)
会 場：宮崎公立大学103大講義室

定員は設けませんが事前申し込みが必要です。
こちらのQRコードからお申込みください。
(聴講料無料・当日のお申込みも可能です)



オンライン(zoom)でも
ご視聴いただけます

ご希望の方はお申込みの際に
オンラインを選択してください

2026
2.13 [FRI]
18:30-20:00

MINORU FUKUDA

ENJOYING ENGLISH GRAMMAR

: When You Get Stuck, It's a Chance

英文法を楽しむ -- 行き詰まりはチャンス

私が英語学(英語の規則性、つまり英文法をデータと理論で解明する学問)を学び始めたのは、学部3年生の頃(1981年)でした。実は、そのときから行き詰まりの連続だったのです。英語は大好きなのに、論文は読んでもわからない。解決案が浮かばない。留学のチャンスがない……。しかし今思うと、行き詰まりは「新しい何か」が始まるシグナルでした。私自身の体験談と感謝との出会いを手がかりに、行き詰まりをチャンスに変えながら英文法の解明に取り組んできた45年を振り返ります。



お問合せ：宮崎公立大学 地域連携・防災研究センター TEL:0985-20-4772 / mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp (土・日・祝を除く9時～17時)

●ご提供いただいた個人情報は本学が実施している各種調査の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。

Ⅱ 研 究 事 業

1. 宮崎公立大学学術研究推進助成事業

1. 令和7(2025)年度 宮崎公立大学学術研究推進助成事業

No.	職 氏 名	研 究 課 題
1	教授 森部 陽一郎	非言語情報伝達手段による外国人労働者への支援
2	講師 金子 龍司	太平洋戦争末期における宮崎県への少女歌劇団の来訪 ―宝塚歌劇移動隊を中心に―
3	特任教授 西村 勇	交換留学生と宮崎公立大の学生による新たな青島観光資源の発見
4	特任准教授 原田 真理	産官学連携における多言語教育実践の進化と展望 ―母語力と日本語力を活かした教育サポート体制の構築を 目指して―

非言語情報伝達手段による外国人労働者への支援

[研究代表者]

森部 陽一郎（宮崎公立大学 教授）

I 実施概要

本事業の1年目では、研究対象のレンガ製造企業において、さまざまな作業における「わかりやすい」作業指示に必要な情報提供の方策を具体化した。

具体的には、多様な労働者（外国人労働者を中心に）が従事する白地工程での作業指示を対象として、同工程での抜き取り検査での良品・不良品の判断を非言語で情報伝達できるような作業指示板を作成した。

それを受けて、2年目では、その作業指示板を使った作業の効率化についての効果測定を行い、その効果について評価を行った。評価した結果は、日本デザイン学会第72回春季研究発表会（全国大会）において報告を行い、さまざまな意見を受けた。また、総括として、本事業についてまとめたものを本学紀要に掲載した。

II 本事業実施により得た成果・効果等

- ・外国人労働者の特性の理解
- ・多様な労働者（外国人労働者を含む）への情報提供の重要性
- ・白地工程の品質管理のために、どのような情報を伝えるべきかを精査
- ・多様な労働者への対応のため、カラーユニバーサルデザインの適用
- ・作業環境の効率化
- ・言語以外での作業に関する情報伝達の可能性
- ・工場という作業空間における最適な情報伝達を模索する機会となった

III 問題点および今後の課題等

効果測定において、微妙な判断を要す場面（具体的には白地工程での抜き取り検査におけるレンガの破断面の状況）をどのように判別させるかという問題が残った。今後は、この作成した作業指示板を運用しつつ、足りない部分をどのように非言語情報として反映していくかを考えていく必要がある。

太平洋戦争末期における宮崎県への少女歌劇団の来訪

—宝塚歌劇移動隊を中心に—

[研究代表者]

金子 龍司（宮崎公立大学 講師）

I 実施概要

- ・前年度から継続して史料収集を行った。本年度は、国立国会図書館、阪急池田文庫、早稲田大学演劇博物館を往訪し、史料の閲覧・複写を行った。
- ・前年度収集済の史料と併せて分析を行い、とりわけ地方紙や全国紙の地方欄を主要史料として次項掲載の研究報告および各稿の執筆を行った。

II 本事業実施により得た成果・効果等

- ・本事業による成果は以下のとおり

(論文、研究ノート、コラム)

- ①金子龍司「戦時日本の娯楽と文化」『歴史評論』904、2025年
- ②金子龍司「戦時期「軽音楽」の統制と更生」(戸ノ下達也, 洋楽文化史研究会編『人びとと音楽―戦時期「健全娯楽」のなかで』金沢文圃閣、2025年)
- ③金子龍司「戦時少女歌劇興行の女性ファン統制問題―演劇統制の限界―」『史学雑誌』135(2)、2026年
- ④金子龍司「決戦体制下の宝塚歌劇移動隊―宮崎県での公演を中心に」『intelligence』26、2026年
- ⑤金子龍司「戦争末期、宝塚歌劇団来る」(大学的宮崎ガイド編集プロジェクト編『大学的宮崎ガイド: こだわりの歩き方』昭和堂、2026年)

(口頭発表)

- ①金子龍司「決戦体制下の宝塚歌劇移動隊―宮崎県での公演を中心に」20世紀メディア研究所第190回研究会 2025年10月25日

III 問題点および今後の課題等

- ・本事業実施により指摘できたのは、演劇史研究において観客研究が進んでいないことであり、このために戦時下の興行界において問題視された事柄が十分明らかになっていないことであった。
- ・具体的には、これまでの戦時演劇研究などにより、戦時下にあつて問題とされた演目・曲目・演出などは明らかにされてきたものの、観客の反応を含めた劇場の雰囲気の問題視され統制が試みられたことについては分析されてこなかったことを示した。
- ・本事業はこの「雰囲気」研究の一部であり、主に戦時少女歌劇興行の「雰囲気」がなぜどのように問題視されたのかを考察した。
- ・引き続き2026年度は長谷川一夫などの映画スターや灰田勝彦といった二枚目歌手に分析対象を拡大し、戦時興行統制における「雰囲気」の問題を2026年9月のメディア史研究会大会および11月の日本社会学会大会で成果を報告予定。

2 成果公表方法の変更

申請時点では倉真一編『大学的宮崎ガイド』(昭和堂、2026年予定)において成果公表予定であったところ、上記1.により、史料調査に相当の時間が必要であり、かつ学術誌の査読に堪えうる内容となる可能性も捨てきれないことから、同書での成果公表は見送り、査読誌への掲載を目指すこととする。

交換留学生と宮崎公立大の学生による新たな青島観光資源の発見

[研究代表者]

西 村 勇（宮崎公立大学 特任教授）

[研究分担者]

辻 利 則（宮崎公立大学 学長）

原田 真理（宮崎公立大学 特任准教授）

I 実施概要

本事業は、本学学生（以下学生）と交換留学生（以下留学生）が協力して、新たな青島（宮崎県内）の魅力を発見する事業である。留学生が来日する前に学生が外国人用青島観光ガイドマップを英語で作成する（可能であれば韓国語、中国語も対応）。留学生が宿舎より公共交通機関を利用し、作成した外国人用青島観光ガイドマップをもとに青島の気になる魅力的なスポットを訪問し、地域の人たちに取材を行い、写真とコメントを収集する。

留学生が収集したデータを学生が聞き取り調査を行い「何故留学生が面白いと感じたのか」を理解した上で、ウェブ上にマッピングしていく。英語、韓国語、中国語のウェブ版「外国人用青島（宮崎県）観光ガイドマップ」が完成する。

2年間継続実施することで、様々な観点からの観光情報がマッピングされる。

II 本事業実施により得た成果・効果等

- ・ 完成した AoshiMap <https://svy.jijo.jp/svy/aoshimap/alldatalist0/1>



- ・ 留学生及び学生が宮崎地域に関心を持ち、様々な写真の投稿を行った結果、地域への興味が増加した。
- ・ 学生自らが情報発信サイトの改善について検討を行い投稿サイトのバージョンアップを行った結果、若者が希望するサイトへの改善が行えた。
- ・ 学生が留学生へヒアリングを行い投稿についての背景を理解し、収集した情報の多言語化（日本語、英語、韓国語、中国語）を学生が行った。学生はヒアリング法や多言語での情報発信を習得できた。
- ・ 留学生が宮崎の人々と交流し、宮崎市への友好的な感情が育成できた。
- ・ 宮崎市観光戦略課へ研究報告会を行った。市職員と学生の意見交換も実施した結果、外国人観光戦略に向けて以下の新たな6つの特徴を提供できた。

「推し活」 推し活は海外でも盛んなので宮崎にあるドラマ等のガイドマップ
「アニメ」 日本発アニメで見てた日本の居間やコタツなどを体験してみたい
「ドラッグストアやスーパー」

外国人の居住地は都会ばかりではない。整然と見易い小売店や店員の対応に感動する留学生も多い。

「サイクリング」 韓国は自転車に乗る機会が殆どない。早朝に自転車に乗り海まで行

	き海岸線から昇る朝日を見た留学生もいた。
「スイーツ」	やはり若い女性に人気。日本は手作りスイーツ（和菓子も含め）が多くあると感じている。味や美しさに感動する留学生も多い。
「田舎体験」	既に東京や大阪などの都会を旅行した外国人も多く、また世界的に経済のスピードが早くなっているので、日本の田舎で何もしないでゆっくりしたい。

III 問題点および今後の課題等

- ・留学生投稿には店舗撮影の許可を得ていないものもあり、全てを公開できない。
また、それを管理することは現段階では難しい。
- ・米国留学生は参加する学生が極端に少なかった。参加や投稿への動機づけに工夫が必要であった。
- ・青島のみ焦点をあてると投稿が少なくなるので、宮崎県全体での投稿となった。
- ・留学生へのヒアリング調査から特徴的な行動を理解した上での宮崎市内のお散歩マップなどの作成

産官学連携における多言語教育実践の進化と展望
—母語力と日本語力を活かした教育サポート体制の構築を
目指して—

[研究代表者]

原田 真理 (宮崎公立大学 特任准教授)

I 実施概要

本事業の目的は、外国人家族帯同者や地域在住外国人へのヒアリング調査を通して、教育・生活上の課題や支援ニーズを明らかにするとともに、多様な言語資源を地域教育に活用するための教育研修プログラムを開発し、産官学が連携した持続可能な多言語教育支援システムを提案することである。以下の3点①外国人生活者・家族帯同者の教育支援ニーズの可視化、②母語力と日本語力を活かした多言語教育支援人材の育成、③大学を HUB とした地域連携型教育支援モデルの構築、を主たる目的とし、研究を実施した

II 本事業実施により得た成果・効果等

- ・宮崎市国際交流協会が主催した、外国人親子のための子育てカフェ、ワクワク親子教室の運営補助を行ない、インタビュー調査、ヒアリングを実施した。
- ・スペイン語、英語、中国語、韓国語で、基本的な挨拶、料理名、学校についてのスライドやカードを作成し、母語話者が追記したものを完成させた。直接保護者には依頼できなかったが、凌雲祭において留学生がそれらのスライドを使用し、それぞれの言語で説明を行った。
- ・2月22日の国際母語デーに向け、市国際交流協会と打ち合わせを重ねた。保護者が講師となり、本学において多言語での絵本読み聞かせ、ロシア語を使った歌、インドネシアの伝統舞踊、フラメンコの披露をした。本学学生もボランティア参加をした。
- ・年度末の子育てカフェにおいて、報告会を実施した。

III 問題点および今後の課題等

- ・本事業では、外国人住民の母語力や文化的背景を地域教育資源として活用することを目指したが、実際にはイベント等で母語・文化紹介を行う活動に留まり、教育支援人材として継続的に参画する仕組みの構築には至らなかった。その背景として、教育活動に参加するための時間的制約、日本語による説明・調整への不安などが挙げられる。実際にネパール、インドネシア、マダガスカル、フィリピン、パキスタンの保護者らと話し合いを行ったが、集まる日時を調整する段階で、困難が生じた。
- ・本事業を通して、外国人住民が「支援対象」であるだけでなく、地域教育を支える人的資源となり得る可能性が確認された。今後は、単発的な文化紹介活動にとどまらず、多言語教育支援人材として継続的に参画できる制度設計と地域連携体制の構築を進めていく必要がある。

Ⅲ 連 携 協 力 事 業

1. 宮崎銀行・宮崎太陽銀行・宮崎商工会議所との連携協力
2. 宮崎日日新聞社との連携協力
3. 社会福祉法人宮崎県聴覚障害者協会との連携協定

1. 宮崎銀行・宮崎太陽銀行・宮崎商工会議所との連携協力

○宮崎銀行

- ・令和7(2025)年度は、なし

○宮崎太陽銀行

1 「キャリア設計Ⅱ」の講義での企業訪問受け入れ

本学の後期開講科目である「キャリア設計Ⅱ」で実施する学生の企業・自治体インタビューの受入を行っていただいた。

- ・実施日：令和7年11月25日（火）
- ・参加学生数：10名

○宮崎商工会議所

1 日商簿記検定

日商簿記検定の試験会場として、学内施設の貸出を行った。

- ・実施日：令和7年6月8日（日）

2 みやざき観光・文化検定

みやざき観光・文化検定の試験会場として、学内施設の貸出を行った。

- ・実施日：令和7年12月21日（日）

3 「キャリア設計Ⅱ」の講義での企業訪問受け入れ

本学の後期開講科目である「キャリア設計Ⅱ」で実施する学生の企業・自治体インタビューの受入を行っていただいた。

- ・実施日：令和7年11月25日（火）
- ・参加学生数：9名

2. 宮崎日日新聞社との連携協力

本学では、学生が時事問題や地域の課題について関心を高めるため、新聞を活用した講義（※）を設け、宮崎日日新聞社から、その講義に、記者などを講師として派遣していただいている。

※令和 7（2025）年度後期「時事問題ガイド」（主に 1 年生対象科目）

	日 時	講義題名	講師名
1	10 月 03 日（金）	地元紙のトリセツ 新聞で共感力養おう	宮下 拓 整理部参事
2	10 月 10 日（金）	配膳ロボとドローン 高齢化でさらに活躍	湯田 光 経済部編集委員
3	10 月 17 日（金）	人口減少社会 豊かさ実感する地域を	黒木 裕司 編集局次長兼報道部長
4	10 月 24 日（水）	牧水生誕 140 年 土台つくった出会い	落合 敬史郎 生活文化部編集委員
5	11 月 07 日（金）	戦後 80 年報道 事実基に記憶を継承	徳留 亜弥 報道部次長
6	11 月 14 日（金）	支社・支局の役割 地域密着報道支える	黒木 智洋 報道部次長
7	11 月 21 日（金）	宮崎国スポ 支え合いで感動再び	中園 文雄 運動部編集委員
8	11 月 28 日（金）	新田原基地 F35B 配備 継続的な負担軽減を	清水 克彦 報道部編集委員
9	12 月 05 日（金）	本県の NIE デジタル教材も活用	黒木 友貴 読者局読者室長
10	12 月 12 日（金）	伝える文書・伝わる文書 読み手へ思いやりを	俣野 秀幸 論説委員会副委員長
11	12 月 19 日（金）	新聞写真の価値とそのチカラ 真実宣言し責任負う	猪八重 俊樹 写真映像部長
12	12 月 26 日（金）	地方と政治 若い人こそ声上げて	海老原 斉 報道部次長
13	1 月 09 日（金）	災害と新聞報道 風化させず記憶継承	西脇 寛 報道部編集委員
14	1 月 15 日（金）	瑛九、今を生きる 顕彰活動県外で熱気	杉田 亨一 報道部編集委員
15	1 月 23 日（金）	デジタル時代の報道 情報の「信頼性」維持	鬼束 功一 報道部編集委員

3. 社会福祉法人宮崎県聴覚障害者協会との連携に関する協定

令和7年7月5日（土）、宮崎公立大学（辻学長）と社会福祉法人宮崎県聴覚障害者協会（堀口理事長）は、本学及び社会福祉法人宮崎県聴覚障害者協会の関係者が集まる本学の交流センターにおいて、連携に関する協定を締結いたしました。



今後、本学では、聴覚障害者をはじめ多様な人々が安心して学び・暮らせる共生社会を推進し、学生の多様性理解と地域貢献意識を高め、グローバル化する世界で多様な人々とともに主体的に活動できる人材を育成していきたいです。



宮崎公立大学公式 SNS

You Tube



Instagram



Tik Tok



X (旧 Twitter)



高校生向け LINE



地域連携・防災研究センター年報

令和 7 (2025) 年度 第 18 号

発 行 日 : 令和 8 年 9 月
編 集 者 : 宮崎公立大学 地域連携・防災研究センター
住 所 : 〒880-8520 宮崎市船塚 1 丁目 58 番地
電 話 : 0985-20-4772
F A X : 0985-20-4773
U R L : <https://www.miyazaki-mu.ac.jp>
E-Mail : mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp
